【講演記録】

「ドラマチックな愛大誕生物語」

愛知大学名誉教授（地理学）、愛知大学東亜同文書院大学記念センター元センター長　**藤田　佳久**

（11 月 24 日　豊橋市南部地区市民館）

司会 : 皆さん、おはようございます。本日は、今年度の「知っトク！」の講座の 3 回目、最終回になります。ちょっとカメラの機材もたくさん入って緊張しますが、先生が一番緊張されているのではないかと思います。早速それではよろしくお願いします。

藤田 : 皆さん、おはようございます。いよいよ講座も 3 回目、ラストということであります。きょうはカメラが入っていまして、ちょっと緊張しています。大学の広報課が撮影したいということです。気にせずにやりましょう。（なお、文中の数字、例えば、［1］、［2］…は図表番号を示します。）

1.　はじめに

きょうは、今までの 2 回の講座を受けて最終日ということで、またこういうふうに少し内容的に工夫をしながらタイトルを付けました。「ドラマチックな愛大誕生物語」ということにさせていただきました。今日はどういう切り口から最終回に持っていこうかなというのをいろいろ考えたのですけれども、きょうは 2 部あります。こっちのほうの出だしの「切り口」分からです。

2.　「切り口」、愛大創設直後の学生による市民文化交歓祭を知った発端

そしたら、けさ、私は『東日新聞』を取っているのですけれどもこの記事がですね、『朝日新聞』から『東日新聞』の記者に移られた、その方が 1 週間ほど前に来られてこれを掲載され、ちょうどこの記事が載っていました。他の『東愛知新聞』の方が少し前に紹介されました。そこでこの話から進めさせてもらおうかなと思いました［1］。

事の発端は、この小タイトルにあり、愛知大学交歓音楽会と書いてありますね。これは同じものですけれども、他紙は入場券が紹介されています。これをよく見ましたら、今 NHK テレビの『エール』でやっている古関裕而、それから伊藤久男らが、その他の歌い手さんとコロンビア楽団を引き連れて指揮をしていた、そういうことになっています。これは愛大学生が実行した豊橋市民との文化交歓祭の一部でした。

実は本学の卒業生で小崎昌業（まさなり）という方が外務省に勤められ、各国の大使をされたのです。今はもう 96～7 歳ぐらいです。その方のそれまでの人生を振り返ってもらって、東亜同文書院大学記念センターのほうでブックレットを作るということで、ご本人にも書いてもらいましたけれども、こちらからもいろいろ質問をしたりして一冊の本にまとめていこうという企画がありました。

東京事務所というのが愛知大学にありまして、霞が関の 37 階という空中に浮かんでいるような事務所、すぐ下に皇居が見えたりして実に抜群の場所ですけれども、そこ

でいろいろ聞き取りをしました。そのときに、ご本人は滋賀県の出身で、滋賀県の実家から参考までにといって、たくさんの昔からのアルバムを持ってきてくれました。それを見させていただいて、私と森さんという当時は記念センターのほうの職員の人だった方と一緒にアルバム写真を撮影したんです。ところで本年、森さんのほうがこのコロナの影響で時間が取れたというので、もう一回そのときの写真の確認のためにずっと見たのです。そうすると、これらの入場券や招待状が出てきたわけです。こういうことを昔やったという印刷物をちらっと見たことがあったのです。だけど、具体的にこういうものがあるというのは知りませんでしたので、森さんのほうもびっくりして、「藤田先生、こういうのがあった」ということが新たな物語の始まりになったのです。

それでは、これを少し見てみましょう。これは、昭和22年の話です。ということは終戦の2年後の6月になります。このときの入場券で、お配りしたプリントと同じですけれども、愛知大学が誕生したのが終戦の明くる年、昭和21年11月15日で、旧制大学として認定されたのです。当時の旧制大学というのは天皇が認可するのです。つまり天皇の裁可によって認められるのです。当時の天皇が終戦の約1年あまり後に愛大の創設を認めたわけです。その11月15日は愛知大学の今でも開学記念日になるのですけれども、入試はその年の暮れから、お正月が明けるときにやって、授業が5月から始まったのです。この市民との交歓祭は6月の中旬ですから、何と授業が始まって1カ月と半ぐらいでこういうことをやったのです。これは小崎さんの持ってきたアルバムの中にあった表紙とそのプログラムです。

3.　愛知大学開学と引揚げ総合大学そして寮生

これは、なぜこのようなことをやったのかということですけれども、後でもちょっと出てきますけれども、要するに愛知大学が誕生するに当たっては、前にもちょっとお話をしたと思いますけれども、終戦の年から明くる年の1年間ぐらいは、やはり大陸から戻ってくる各学校の学生が結構いたのです。だけど、大陸の学校はみんな閉校になっています。日本へ帰ってきても、つまり、内地へ帰ってきても行く学校がないから路頭に迷うわけです。そこで文部省は、今は文科省と言いますけれども、当時の文部省は取りあえずどこの大学でもいいから入学を認めるということになったのです。そこで、帰国した学生諸君が東大であろうが京大であろうが、東北大であろうが九大であろうが、当時のいわゆる帝大といいまして、そういう学校とかその他の学校に自由に入れたわけです。

それはそれでいいのですけれども、1年間たったら混乱が起こってしまいます。次々と大変なことになりました。色々な学生も入ってくるわけで、受入側も混乱します。そのときに愛知大学が、後でお話しするような理由があって設立されたのです。この豊橋の地で認可されたから、文科省はその後、外地から来た学生はみんな愛知大学へ行きなさいということで、愛大へみんな集まったわけです。だから、愛知大学はまさに「総合引揚げ大学」となり、引揚者の文科系学生をみんな集めました。

こうして、豊橋に旧制大学が誕生したと

The Higashiaichi Shimbun
東愛知新聞〔１〕
2020年10月19日(月) / 本日の予報 雨のち曇 / 最

ドッグフードの神様
Dog food no Kamisama

【愛大と古関さんの関係資料見つかる　―開学直後の市民との交歓祭―】

愛大と古関さん関係資料見つかる

10月13日(火)00:00掲載

カテゴリー：社会・経済 / 地域・教育

ツイート　いいね！ 59

ＮＨＫで放送中の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった作曲家の古関裕而さんが、１９４７（昭和22）年６月に豊橋市公会堂で開かれた「愛知大学交歓祭」の音楽会で指揮をしていたことが、愛知大名誉教授の藤田佳久さん（79）と、元東亜同文書院大学記念センター職員で、専門学校事務員の森健一さん（40）による調査で判明した。２人は「ドラマで有名になった古関さんが愛知大学とも関係があった」と驚いている。

交歓祭は設立間もない愛知大が、地域住民と交流することを目的に開いた。体育祭や児童文化祭、教授の講演会などが数日間にわたってあったとの記録が残る。古関さんが訪れた音楽会は６月16日にあった。歌手の伊藤久男さんらが出演し、古関さんはコロムビア軽音楽団の指揮をしたとみられる。

藤田さんと森さんは２０１６年、愛知大東亜同文書院ブックレットとして、１期生で元外交官の小崎昌業さんの記録をまとめた「小崎外交官、世界を巡る」を発刊。この時集めた資料の中に、古関さんの記録が残っていた。小崎さんは交歓祭の開催に深く関わっており、資料の中にあった音楽会の入場券に古関さんの名前が記されていた。新型コロナウイルス禍で資料を整理中に見つけた。

藤田さん、森さんは「古関さんの名前を見つけた時は、とても驚きました。有名人が愛知大学と関わりがあることが分かり、光栄に思います」と話していた。

【竹下貴信】

愛知大学と古関裕而が関わる資料を発見した藤田さん㊧と森さん=東愛知新聞社で

愛知大學交歓音樂會
出演　伊藤久男　その他
演奏　コロンビヤ輕音樂團
指揮　古關　裕而
入場券
六月拾五日
時　六月十六日(月)
場所　豊橋市公會堂
主催　愛知大學交歓祭
30

古関さんの名前が記された音楽会の入場券(提供)

1947年の愛知大学交歓祭の様子(同)

いうわけで、戦災を受けた大都市の学生たちは校舎が駄目になり、学ぶところがなくなったので、愛知大学に入学したり、隣の伊勢の神宮皇學館という大学は、神道の大学としての教育機関ですから GHQ は真っ先につぶします。それで、行くところがなくなったから、神宮皇學館からの学生も入ってきます。あとは、軍隊関係で予備士官学校生とか、そういう人たちも受け入れます。それで、朝鮮からも、あるいは台湾からの学生も来ます。中国本土にあったいろいろな満州関係の、いろいろ多様な学生がたくさん入ってきたわけです。入ってきても、愛大には 15 師団以来の兵舎がたくさんありましたから、そこを寮としてみんなそこに入れました。但し、入試はしっかりやっています。

私もイギリスにいたことがありましたけれども、欧米とか中国とか、他の日本以外の大学では、皆さんだいたい寮で生活します。だから、寮は完備していたわけです。だから、愛大もそのときは兵舎があってそれを寮へ転用できたから良かったのです。それ以降は日本の大学も、愛大もそうですけれども、自宅通学生というのが増えていきます。自宅通学生の通う大学というのは、恐らく日本だけでしょうね。非常に珍しいです。したがって、寮については完全に欧米並みの愛大がスタートしたわけです。

そこで一番大きな問題は、寮にたくさん学生たちが入ったのですが、みんな出身地が違うのですね。書院から来た人たちが一番多いことは多いのですけれども、そのほかの色々な学生たちも来ているからお互いに話が合わなかったり、学生時代に目的とした方向が違っていたりしましたから、戦後、愛大のキャンパスの中に編・入学してきても、寮の中ではなかなかまとまらなかったわけです。

そこで、一番最高齢と言うのもあれですけれども、学徒出陣なんかで大学から出征させられてしまって、学問が自由にできなかった人たちがたくさんいます。そういう人たちも復学して入ってきました。書院の人たちもそうです。そのうちの学部の 3 年生に一番上のほうの学年に入ってきたのが 13 人です。ほとんど書院の卒業生です。そのうちの今言った小崎さん、この人がまとめ役になって、もう一人同室でよく似たことを考えた何人かいて、数人でやったと思いますけれども、その小崎さんが中心になって、このままではわれわれ学生諸君はまとまらない。そこで何か大きな手を打たなくてはいけないというので考えたのが市民との文化交歓会なのです。

4.　愛知大学設立趣意書と「地域文化への貢献」

愛知大学がここへ設立されたときの大きな「設立趣意書」の内容は大きく 3 つありました。大きな理念としては、「世界平和のために」というのがあって、その下で「国際人の養成」というのが 1 つありました。GHQ の監督の下で戦後、国際人なんていうのを主張したのは極めて大胆でした。他の学校は、ほとんど設立趣意書というのはないですが、愛知大学はそれを書院時代にベースに持っていましたから、国際人の養成を主張したのだと思います。戦後の GHQ 支配下では、日本人は海外へ行ってはならないという昭和 26 年の独立までの縛りがあったのにです。

もう一つが、旧制大学としては 6 大都市

以外に初めてできた旧制大学が、この豊橋の愛知大学です。今はいろいろ大学がありますけれども、6 大都市以外で旧制大学ができたというのがはじめてです。そのために「地域文化への貢献」というのがもう一つ設立趣意書の中にありました。だから、3 本柱の 2 つ「国際人の養成」「地域文化への貢献」のうち、小崎さんは「地域文化への貢献」という理念を実践しようとしました。豊橋は長い間、愛大の辺り一帯は兵舎でした。だから、軍都でありました。それがなくなって、今度は文化都市になる。文化の都に変わるのであれば、そのきっかけをわれわれがつくろうではないかというわけで、市民との「文化交歓祭」というのを企画したわけです。寮に入ってまだ半年もたたないです。授業が始まって 1 カ月余りのところで、寮の人たちに呼び掛けて実行したわけです。

そうすると、それまで方向がみんなばらばらだった学生たちが、目標が決まって、そこで市民との交歓会でいろいろなプログラムを出していったわけです。それに関して学生たちは、腹がすいて食べ物もない、着る物もないような時代に最大限いい格好をし、元気にやったわけです。

ちょうど、その直前に「豊橋文化協会」というのが設立されたので、そこにも呼びかけて一緒にやりましょうという形もとりますが、実質は愛知大学の学生たちが主催したのです。学生たちが運営する、それがこの交歓会です。

このスライドは今言ったところです。昭和 20 年 8 月 15 日に戦争が終わって、翌年の 11 月 15 日に愛大が認可されました。これも奇跡です。なぜこのように早くできたのだろうと思いませんか。戦後 1 年余りでもう愛知大学は認可されました。しかも旧制大学としてです。この旧制大学の元は書院が旧制東亜同文書院大学となっていましたから、このバックがあったと思います。1 月から入試があって、5 月から授業開始で、すぐ 6 月 13 日から 18 日が交歓会です。これも非常に**ミラクル**ですね。

これは、今ご説明したので復習みたいなものです。愛大の学生たちと市民との文化交歓会、これは愛大の設立趣意書、このうちの「地域文化への貢献」、そこを学生たちがこういう目標にして、市民との交流、豊橋を文化都市に変えていく、そういう動きをしたわけです。［2-1］

5.　市民文化交歓祭－仮装行列の開幕から古関裕而までのミラクル－

これは、市の公会堂です。市の公会堂、市街地のうち、ほんの少し空襲を受けなかったところに生き残りました。あと、街はみんな焼けてしまいました。公会堂は無事に残ったのです。また、焼夷弾が落ちたとしても、鉄筋コンクリートの頑丈な建物でしたから大丈夫だったかなと思います。これは、学生たちがこのような垂れ幕も作りながら、参加している状況です。服装もまちまちですが、意欲が十分にあったということです。

では、どのようなことをやったのかという日程を見てみます。短いですね。1 カ月半の準備期間です。最初の初日は、児童文化祭の街頭演芸会、焼けた街の中で紙芝居とか人形芝居とか、当時楽器がありませんからハーモニカぐらいしか使えません。ハーモニカの演奏会をやって、市民に P.R.。子どもたちにも P.R.から始めたのです。

次の日は、学生行進というからデモみた

［2-1］

1. 開学直後の
愛大学生達による
豊橋市民との
文化交歓祭

（愛大設立趣旨）＜世界平和をめざす＞
1. 国際人の養成
2. 地域文化への貢献

B. ピアノ独奏、独唱
ハーモニカ合奏
C. 演劇「胡蝶の舞」（愛大演劇部）
＋安城女子専門学校文化部
D. 寮歌合唱
（愛大音楽部合唱団）
――於. 市公会堂――

昭和20年8月15日 終戦
21年11月15日 愛大認可
22年1月～　入試
5月～　授業開始
6月13～18日
愛大・市民交歓祭

6月14日
1. 学生行進（文化祭宣伝. 500名）
2. 学術講演会（小岩井. 戸沢. 森谷）
3. 交換文化祭
A. 青年弁論会　豊橋青年団同盟
東三労働組合青年部
豊橋中学校
愛知大学（英語・中国）

6月13日
児童文化祭街頭演芸会
市内各所（紙芝居
人形芝居
ハーモニカ演奏）

4. 学生の仮装行列
→市民を驚かす
5 小崎昌業・学生自治会長
→公会堂段上から挨拶
→数千人の市民参集
"本日の交歓会成功と"

豊橋市公会堂にて、大盛況であった愛知大学交歓祭の様子

[2-2]

6月15日 交歓体育祭(於愛大)

A 5中学校野球大会
B 7女子・中学卓球大会
C 12中学校排球大会
D 中学生水泳大会
E 中学生庭球大会
F 厚生部交歓会→室探し、バッ、他
G 愛大生クラス対抗
演芸、合唱、演劇、ハーモニカ 人形芝居

[2-3]

6月16日 愛大交歓音楽祭

伊藤久男 ほか

古関裕而指揮

コロンビア軽音楽団

6月12-18日 交歓映画祭

「暖流」(自治会厚生部)

[2-4]

交歓を願って

仮装行列で市民へ P.R

仮装行列前の勢揃い

[2-5]

市民と共に
学生祭の運動会風

生存競争のはげしいパンくい競争

教授親子も参加

焼けた豊橋駅三角屋根の前を仮装行列

沢山の商品

いなものですね、仮装行列をつくって文化祭の宣伝を街の中でやりました。学生が500人参加しました。今も愛大祭の前日には宣伝の仮装行列をやっていますけれども、活気があります。愛大もずっと長いこと活気がありましたけれども、豊橋キャンパスが落ち着いて、ちょっと最近は寂しくなってきたかな。それから、学術講演会というのが次にあって、小岩井さんという次期の学長さんになる先生、あと、戸沢とか森谷とかいう著名な先生を引っ張り出して講演会。

戸沢と森谷という両先生は、外地の京城帝大から引き揚げてきた教授です。そういう人を引っ張り出したのです。ここも面白いです。

3番目に「文化交歓祭」として、まず青年の弁論大会をやります。書院時代は弁論会というのは結構活発でした。戦後も弁論大会は色々開催されました。豊橋の青年団同盟の人たち、それから東三労働組合の青年部の人たち、豊橋中学というのは今の時習館の前身で、中学生です。愛知大学の学生は英語と中国語で弁論大会をやりました。それで、それまでやってきたことの延長でできますから、その辺のところはうまく考えたのでしょう。

それから、ピアノの独奏、独唱、そしてやはりハーモニカです。楽器としては最も手近でした。

それから演劇で、「胡蝶の舞」という、これを実際にやった人に一回会って話を聞いたことがあります。これは演劇部というのをつくってすぐ練習をやったのですが、当時は旧制大学でスタートしたのですけれども、女子学生がまだ少なく、男ばかりのバンカラ風の学校で、200人のうちそこへ女子学生が4人だけ入ってきました。当時は勇気のある女子学生たちです。女性の諸君は、この後全国にいろいろできる、短大へ行く人が出てきます。そういう中で、まだ短大になる前の安城の女子専門学校、今の安城学園の前身の文化部に話をつけて、女子学生の出演を求め、向こうも非常にうれしく協力してくれたそうです。

次は、寮歌の合唱です。合唱なので、このようなことをやったのです。

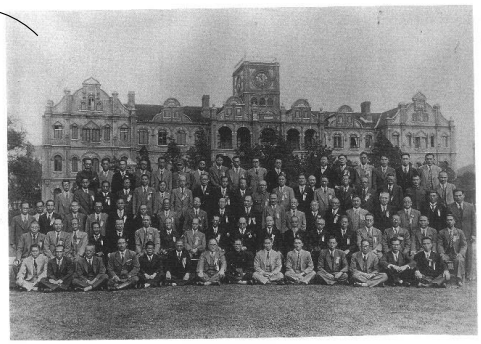
4番目は学生の仮装行列、これは戦争中の長い制限付きの生活をしてきた市民たちにとってはびっくりです。これも後で出ますけれども、実は上海で書院の1年間の学生の行事の中で最大の行事は仮装行列で、毎年市民が書院へ押しかけました。だから、その辺は書院出身の学生にはそう難しくなかったのだろうと思います。

5番目に、先ほど言いました小崎昌業さんです。この人が初代の学生自治会長です。名前は、最初この交歓会の学生の代表みたいな感じだったのですけれども、そこで自治会を立ち上げて、愛大の自治会の誕生です。小崎さんの書いたのを見ると、その公会堂の前に階段があります。あそこの前で最終日にあいさつをやったのでしょう。そのときに数千人の市民が集まったと書いてあります。だから、市民の人たちもこういうものに飢えていたと思います。豊橋の文化活動の第一号を愛知大学の学生たちがやったのです。これは、言ってみれば素晴らしいことだったのじゃないかなと、市民の人たちにも非常に刺激的だったのではないかなと思います。小崎さんもその日の出来事を「本日の交歓会は成功だった」というふうにご自分でご自分を評価しているというか、そう

［2-6］

東亜同文書院の本館

虹橋路校舎キャンパス



〔写真 I-1〕東亜同文書院大学教職員（1940 年以降）
うち 13 人が呉羽へ

［2-7］

書院時代の
仮装行列
と
運動会

［4］

本間喜一学長

愛知大学東亜同文書院ブックレット ⑨

小崎外交官、世界を巡る

東亜同文書院大学、愛知大学から
各国大使・公使としての軌跡

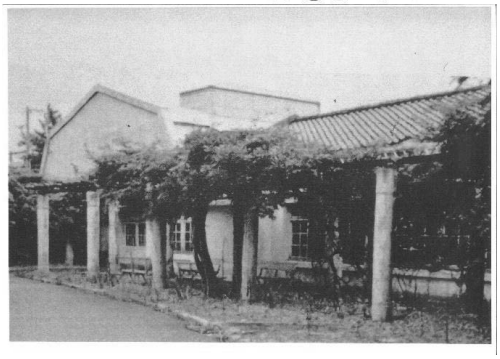
小崎昌業（東亜同文書院大学第42期生・愛知大学第1期生）

［3］
小崎昌業氏

［5］

2. 本間マジック

A 敗戦を見据えて
富山県呉羽に分校設置
上海閉校
→分校長の存続願い
吉田茂外務大臣→OK
→東亜同文書院大学復活！
→300人余入学



呉羽紡（当時木製プロペラ生産）工場
のこの一角が呉羽分校に利用された

いう記述があります。

これが小崎さんです[3]。もう取材の最後のころでしたけれども、外交官時代に、あちこちの世界中のいろいろな国の領事館員や大使をやりました。それから天皇陛下へのご進講、東南アジア、台湾、あちこちに天皇が視察に来たりするときには現地で説明をされたそうです。それから、皇居の中で天皇にご進講を何回もされたという話も聞いたことがあります。非常に温厚な方です。温厚な方が、よくああいうことをやったなと思いますけれども、ご自分は外交官になりたくてしょうがなかったとのことです。書院魂がそうさせたのでしょう。愛大に入って外交官の勉強をまた続けるわけですけれども、そのときに外交官に4〜5人、愛大生の友人たちが合格しました。だけど、自分だけしか外交官にならなかったのだそうです。なぜか。当時お役人の給料はものすごく安くて、インフレ下、外務省に入っても給料で生活できないということで、他の人たちがもう辞めたのです。ご自分は、お宅が少し経済力もあったので何とか続けられたのだと、そんな話もされていました。

この写真は、東京霞が関の37階にあるの愛大の事務所で取材したときのシーンです。目の前にたくさんの写真がありますが、風呂敷に写真がいっぱいあって、実家から持ってきてくれたのです。その中に市民交歓祭の時の学生側からの招待券や入場券の写真があったのです。今年、去年かな、小崎さんは転ばれて骨を折ってしまいました。今年のお正月の東京のこの事務所での名刺交換会には、車椅子で参加されました。

それで、話を戻しますと、次の6月15日に今度は体育祭があります。これは愛大のグラウンドを使いました。市内の5つの中学校も参加しました。教育制度が変わり、この年のこのときに新制中学ができたばかりです。旧制中学ではないです、新制中学です。どこの自治体も新制中学校をつくらなくてはいけない、校舎が要る、お金が要る、戦争直後でお金もない、大変だったのです。いろいろな大きな施設を借用したりしたのです。お金があるところでは造ったりしますけれども、なかなかそれは難しかったです。

それから、7つの中学校の女子諸君の卓球大会とか、排球、中学のバスケットボールです。それから水泳も中学生、今で言うと高校生ですが、この当時は中学生です。庭球、テニスです[2-2]。それから、寮生の中の厚生部が中心で宝探しとかバザーとか、その他もやっています。

それから今度は愛大生だけのクラス対抗で合唱をやったり、演劇をやったり、ハーモニカをやったり人形芝居、忙しかったでしょうね、総出演で、しかも短い時間で全部こなします。愛大のグラウンドがありまして、かつての訓練場であったところです。ここをフルに使いました。ずっと状況を調べて探していたら、当時の写真がいくつか残っていました。このような感じで交歓会をやりますよと、これは仮装行列です。このような感じで行列をやりました。後ろのほうを見ると、ちょっと空襲で破壊された建物が生々しく見えます[2-5]。これは仮装行列のために集まった学生たちです[2-4]。この中で格好はそれぞれそろえたりしています。当時の衣料というのはなかなか不十分だったと思います。ちょっと左のほうはフィロソフィー、哲学などのキーワードが見え、学

生らしい雰囲気です。といいますか、何をやっているのか、ちょっとそこまでは分からないのですけれども。

それで、これは駅前の仮装行列行進です。後ろの右のほうに見えるのが豊橋駅の空襲で屋根が抜けてしまった三角屋根駅です［2-5、下］。これは私より年の上の人はみんな知っていると思いますが当時、愛知電鉄というのが豊橋から神宮前まで通っている、そこでたぶん終わりなのでしょう。向こうの名古屋駅から岐阜のほうは名古屋電気という鉄道会社です。その後、名古屋駅と神宮前のところは地下で後に結んで、今の名鉄電車が岐阜と豊橋を結んだわけです。最初は豊橋駅を愛知電鉄は吉田駅と言っていました。豊橋の昔の名前が吉田でした。そこのところへ、この建物を建てて豊川鉄道と一緒になっていました。今で言う JR、旧国鉄はこの左側のほうにあったです。燃えてしまいました。この三角屋の壁だけ残っています。焼夷弾が落ちたときに天井がストーンとあいたんでしょう、まだ生々しいです。そのときにこういうこと交歓祭をやったのだという歴史的写真です。

これは運動会、これは愛大のグラウンドです［2-5、上］。向こうのほうが寮です。昔の兵舎です。花菱アチャコとか昔の俳優が映画『二等兵物語』などでよく撮影したのはここです。

これは、景品です。お金のないときに、これだけの景品をそろえて、ふんだんに景品を出せますよという説明書きを書いていました。何が並んでいるかは、ちょっとここからは分からないですけれども、短期間に非常に苦労をしてすごいことをやったのだなと愛大生パワーを感じます。

これもいろんな試合をやったり、下のほうはアンパン食い競争でしょうか、間に先生とお子さんの写真です。

これが本物、上海の書院時代［2-6］の仮装行列と運動会の写真です。これは、東亜同文書院の人たちのアルバムを見ると結構たくさん出ています［2-7］。一番人気は、右の女形になった学生、ことしの女性は美しいとか、いろいろ書いてあります。書院は男子ばかりの学校でしたから、女性が憧れだったのではないでしょうか、着飾って出ています。だから、こういうことをやっていたから、豊橋の愛大で学生たち中心で仮装行列もうまかった、材料とか衣服は不足し、このような衣装もなかったのでしょうが、慣れた方法でやれたのだと。書院の引き揚げの学生諸君が、だいたい最初の年は半分近くおりましたから、彼らがやはり中心になり、主導権を握っていて、小崎さんもそうですけれども、やったのではないかなと思います。

そして、最終日は 6 月 16 日で愛大の「交歓音楽祭」［2-3］です。最後の日のフィナーレでやったのでしょう。伊藤久男という大声で歌う人がいますね、昔をよく知っている人は「イヨマンテの夜」とか、すごい迫力ある歌をたくさん歌っていた歌手です。その他、何人も来たのでしょう、「ほか」というのは誰かちょっと分かりません。それから古関裕而が所属していたコロンビア軽音楽団を引き連れて、古関裕而が指揮をしています。終戦から 1 年足らずで東京から列車で来るわけですから、大変だったと思います。古関さんの奥様が豊橋出身だったせいもあったのでしょうか。これがクライマックスの最終日です。この最終日のあとも、

学生達はずっと期間を通じて映画を上映していました。これも大変で、映画の機械が要るし、フィルムも借りてこなくではいけない、当時としては何もないときですから、大変なときによくこういうことをやったものだと思います。これも愛大の始まりの歴史の中で言うと「よくこういうことが出来たな」と非常に**ドラマチック**で**ミラクル**なことだったと言いますか、びっくりする出来事でした。

6. 日中戦争下の東亜同文書院と呉羽分校案の「本間学長マジック」

ちょっと復習ですけれども、東亜同文書院が第二次上海事変のときに日中戦争の中で上海が激戦区になって、そのときに中国軍が攻めてくるというので、これは学生たちが一時長崎へ退避する前に、書院の玄関先に集まってこれから長崎へ退避するときの写真です。その留守にこの校舎がみんな焼かれてしまいます。ちょうど租界の外にあったから、租界の中にあればこのようなことはなかったのです。でも、書院の姿勢としては租界の外で中国の人たちとなるべく接点があるように校舎を造りましたから、焼けてしまいました。それから図書も沢山焼失、学生たちが前回にも大旅行のところで言いましたけれども、全国各地で当時の珍しい貿易品、珍しい製品 10 万点を収集し、展示室などで所蔵していましたけれども、これも戦火で焼失してしまいました。もし今残っていれば、ものすごい博物館ができたと思います。もったいないなと思いますけれども、戦争がもたらす破壊の大きな残念な点です。

これは書院の校舎が焼かれてしまった後、隣の交通大学は奥地の重慶へ移ってしまいましたから、この交通大学を借用してここで授業をしました。そのときの書院の先生たちです。これぐらいの数がいました。問題は、上海は国際都市でしたが、日本の中では、正確な国際情報は流れず、戦争に占領で勝った、勝ったという情報が多かったのです。けれども、上海ですと太平洋の島々で次々と日本が敗れていったという情報が最後の 1 年ないし 2 年ぐらいのところから聞こえてきます。それで、最後の院長、学長となった本間先生が、この先生方の半分、25 人を富山県の呉羽紡績、そこの伊藤忠兵衛という社長は書院ファンで、副社長は書院の卒業生、戦時中で木製のプロペラを作っていましたが、そこへ分校を設けて授業をやるというふうに決めたのです。大英断でした。ところが、それを察知した軍部と上海日本人居留民の人たちが「逃げる気か」と言って、猛反対をしたのです。そのため、25 人のうちの半分、13 人だけを呉羽へ送って呉羽分校としたのです。これが、また本間先生のやり方としての一つの重要な**ミラクル**的、**マジック**的展開で、重要なポイントになります。これも後で出てきます。

これの右側、最後の学長の本間さん、左がその前の学長。東亜同文書院の院長および学長は、長いこといろいろな業績のある人が多かったのですけれども、戦時体制になってしまって一時、矢田七太郎という左手の人、外務省のお役人です。この人が一時学長を務めます。その後、本間先生が学長になってさまざま生じてきた申請や処理手続きまでできたのです［4］。

7.　呉羽分校校長までミラクル－戦後の書院復活－

このように敗戦を見据えて富山県の呉羽に分校を設置した［5］、これも「**本間マジック**」です。それで最後の46期生の人たちは、もう東シナ海はアメリカの潜水艦がうようよしていましたから渡れないです。それで呉羽に集まっていったわけです。上海の校舎と2校舎になります。しかし、終戦とともに上海の校舎は閉校になります。しかし、この呉羽に移った分校長の齋伯守先生が、当時、外務省が管轄でしたから、この吉田茂外務大臣に向けて「これだけ中国との間で貢献してきた学校はなく、中国批評文を書けるのは書院生しかいない」と、「ほかの人も書くけれども、ほとんど現場を知らずに書いている。われわれだけしかそういうことはできない。だから、ぜひ書院をなくさないでほしい、続けさせてほしい」という嘆願書を送ったのです。そしたら吉田外相からOK、よろしいと。この吉田茂外務大臣は、戦後も書院とのかかわりを持ち、埼玉県のある場所で書院三人聖人のお祭りをしていた時にも参拝に参加しています。やっぱり外務をやっていたから、書院に非常にシンパシーというか親しみを持っていたのかなと思います。

こうして、東亜同文書院はなんと戦後呉羽で復活したのです。300人ぐらいの書院生がここの呉羽の校舎へ入学し直したのです。分校校舎は工場の中の一角にありました。そういうことで勉強を始めたのです。上海は閉校でしたから、もう書院の建物は閉鎖されてしまいましたけれども、呉羽の地で芽生えたのです。

これが呉羽校舎、私が撮影したものです［5］。当時はまだ、今もちょっと残っていますけれども、この後もこの建物はのこぎり型の工場でしたから、音響効果がいいというので、東京の音楽大学の演習場になりました。今はこの辺一帯が富山市の野外音楽堂とか文化施設で埋め尽くされるようになりましたけれど。

先ほど出した先生たちの中の13人がここへ来て、学生の教育を行ったのです。

8.　「本間マジック」の功奏－図書と旅行記録の救出－

ところで、東京には東亜同文書院を経営する東亜同文会の建物がありました。戦後は霞山会館と呼んでいます。戦後にGHQが入ってきた時に、東京は空襲で多くの建物が焼けてしまったので、お堀端の日本生命ビルを本拠地にしていますね。東亜同文会ビルは2階建ての頑丈な建物だったので、そこもGHQが接収するということになりました。

ところが、ここの東亜同文会は書院の経営母体で、学生たちが中国や東南アジアで歩いて調査を行った膨大な報告書等カーボン紙で複写し、学生たちが2部作っていたうちの1部がストックされていたのです。それから中国で集めた沢山の図書類がこの中にあったため、そのままではみんなアメリカにとられてしまいます。そのときに駆け付けたのが呉羽校舎の教職員と学生たちです。超満員の北陸線と東海道線を乗り継いで東京へ夜着いて、一晩のうちにかき出し、東亜同文会の理事のお宅に隠したのです。合計4万冊ぐらいありました。これができたのも呉羽に分校を造っていたからです［8］。「**本間マジック**」の力でしたし、呼

応した分校長のミラクルな発想でした。

霞山会館は文部省の隣にあるのですけれども、その前の通りの向こう側に当時は満州会館というのがありました。三角形の大きな建物です、満州会館ビルですね。しかし、そこにはこういう助人がいなかったら、みんなGHQに接収されてしまいました。当時の持ち出された資料はアメリカのどこかにある筈です。もし、このときに書院のものも接収されていたら、アメリカのどこかに行ってしまって、書院生の旅行実績や足跡とか、そんなものは完全に消されてしまいます。だから、掻き出して隠された図書は、戦後の愛知大学にそのまま残って、愛知大学を設立するときの貴重な図書になったのです。愛知大学の設立スタッフは、みんな無一文で外地から帰ってきて、何もなかったのです。だけど、大学を設立するには図書が要るのです。その図書は、こういう経過の中で呉羽分校があったがゆえに愛知大学設立に貢献したのです。これは本間先生の先を読むマジックといえますね。私はそう思っています。「**本間マジック**」ですね。

これが東亜同文会ビルです。これが東京の空襲でも焼け残っていたのです。この建物の2階に膨大な資料がありました。戦後は霞山会として、組織を変えながらできて、のちに9階建ての建物を造って、そこを貸しビルにして赤坂では東亜学院の語学学校も経営しています。ところが、元々の東亜同文会の一角は、文部省のすぐ隣ですけれども、文部省は高いビルを造って空間を広げたいというので、先ほど言いました37階の建物を霞山会と協力して建設し、そのうちの上から4階分を霞山会の建物にして、一番上の37階のスペースの一つに愛知大学の東京事務所が移設されています。

これがその当時の学生諸君の調査報告書です。卒論になっています。布紙の表紙で、私はこれを最初に愛大に来て、最初に出会って感激した記録書です。これをずっと読みましたけれども、布紙の薄いのに書かれた原稿は、学生諸君の力作で、中には最大400ページもあるのです。ページがすごい力作です。今の学生ではなかなかそうはいかないです。当時はテレビもスマホもない時代、文書だけでありますから。こういうような力作が生まれ、その中国各地を学生が記録した先ほどの原稿が書物になりました。『支那省別全誌』全18巻です。さらに20年後には23巻を予定して9巻まで出しましたが、戦争で途絶えてしまいました。これらは、今愛知大学の図書館にあります。この中に「霞山文庫」と称して約4万冊の本があります。あと、戦後は住友の社長だった人から簡斉文庫と称する漢籍などがなども大量にあります。書院の時代にももちろん漢籍を集めていましたけれども、今は南京大学の南京図書館に移されています。

9.　帰国時の「本間マジック」全開－学籍簿持ち帰りから、金の延べ棒まで－

それから、帰国したときに書院生の学籍簿とか成績簿を持ち帰ったのも**本間先生の機転**です［7］。こういうのを外地から持ち帰ってきた学校は、ほかには一つもありません。引揚げの時、みんなボストンバッグ1個しか持ってこられませんでした。本間先生は複数の人数で帰ってくるときに、1人ずつボストンバッグの底に1冊ずつこんなに厚い学籍簿を忍ばせて、また成績簿もみんなで分担してボストンバッグの底に忍ばせ

[6]

B. 東亜同文書院大学閉校直前の対応

紙幣→食糧、ガソリン、車、金の延べ棒

（第1次大戦後のドイツ留学体験）
（超インフレ時代）

学徒出陣から帰校学生
書院の教職員の生活費確保
帰国時の費用

日本での新キャンパス探し

学籍簿

[7]

C. 帰国時の対応

- 学籍簿
- 成績簿

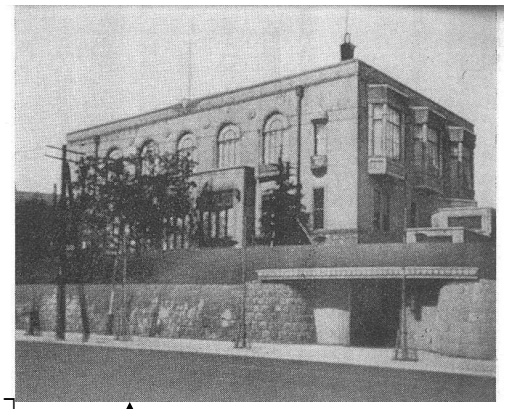
} 持ち帰る 機転

↓

書院生の戦後の身分証明

愛知大の書院とのつながり

- 中日大辞典作成カード→温存依頼



[8]

東京・霞山会館（東亜同文会接収 by GHQ）

↓

書院生大旅行調査報告書
中国書など多数

↑

呉淞校舎の教職員学生有志が
接収直前に掻き出し確保

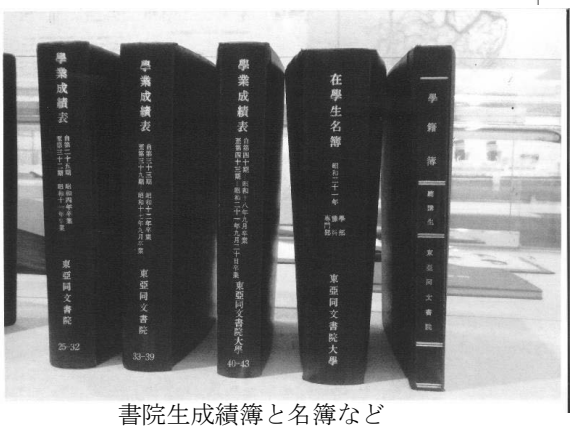
愛大設立時の図書となる

[9]

D. 新大学構想（1）

1 豊橋市の全面協力
2 豊橋財界の全面協力
3 のち、愛知県知事をトップとする県下の企業（大中小）による愛大への寄付体制
4 新大学人事→旧制大学相当人材
　法経学部→旧京城・台北帝大人材
5 名称「知を愛す→愛知大学」

近衛文麿前総理の自殺←東京裁判
↓
東亜同文会閉鎖・解散
↓
呉淞分校も閉鎖
↓
本向学長（在上海）より新たなキャンパス！
呉淞分校教授 神谷（愛知・高浜出身）
↓
豊橋予備士官学校跡地をタッチの差で確保！
↓
愛知大学設立のキャンパス



書院生成績簿と名簿など

て、見つかったら自分が責任を取るということで持ち帰ってきたわけです。これらは、書院生が戦後日本で身分証明など重要な証に使えたわけです。

戦後しばらくの時代は、まだ戦前の雰囲気がありましたから、上海というと東亜同文書院だというのは非常に有名でした。だから中国に行っていて、上海帰りの人は「自分は東亜同文書院の卒業生だ」と名乗る人が非常に多かったのです。もう、このような学籍簿とか成績簿はないだろうと、自分はあそこにおったのだから、例えば書院の建物ぐらいは見たことがあるかもしれないですね、そういう人が学歴詐称でたくさん出てきたのです。私は、愛大に赴任し、書院の旅行記や書院の研究を始めたころでした。私がそういうのをやっているというので外部から電話がいっぱいかかってきたのです。1 日、多いときは 5〜6 件かかってきました。みんな同じ。「失礼します」と言って、「何とかの人事課の者ですが、こういう方が書院の卒業生だと言うのですけれども、本当に書院の卒業生でしょうか、確認していただけませんか」と。当時は今のように個人情報は厳しくないですから、名簿があるからずっと調べて「またないな」とか「ないな」と回答しました。全部偽者というか学歴詐称です。そういう時代があったのです。今でも有名人の人で東亜同文書院卒とずっと書いている人もいます。あいつは違うと書院卒生はみんなそれを知っています。1 クラスがだいたい、1 学年が 70 から 100 人ぐらいですから、みんなお互いに知っています。そういうようなことが、このときにありました。だから、この学籍簿、成績簿の確保も**本間先生の機転**、「**本間マジック**」です。

ちょっと前に戻ります。先ほど私が飛ばしてしまいましたが、これも「**本間マジック**」です［6］。東亜同文書院大学が閉校する直前に、本間先生はどんなことを言ったか、「持っているお金は全部紙くずになる」。これは第一次大戦後のドイツに留学しておられた本間先生の経験です。ドイツは第一次大戦に敗れて、2,000 倍とか 3,000 倍とか、猛烈なインフレに見舞われました。紙幣はもう紙切れです。パン 1 つ買うのに、こんなにたくさんのお金を持って行かなくてはいけないというような中で留学の体験をしました。だから、この手持ち紙幣は全部使えなくなる。お金がまだ生きているうちに全部食料とかガソリンだとか車、それから、もう一つ、金の延べ棒に換えたのです。帰国するときに金の延べ棒なんか持って帰れませんから中国の人に預けました。中国の人にそんな信用できる人がいたのかということになるのですけれども、本間先生にはいろいろな信用関係がある人が何人かおられて、その中の特定の人にお願いをしてこれを預けていきました。この人は戦後台湾へ移って、台湾ヤクルトの社長になった方です。その人に預けました。それでもって、学徒出陣から帰ってくる学生たちの面倒を見る、それから書院の教職員の生活費の面倒も見る、帰国のときの費用にも充てます。だから、そういうことがなかったら、みんなお手上げです。大変な目に遭っていますね。思考停止になったと思いますけれども、こういう機転を利かせたものだから無事に終戦の明くる年の 5 月、帰ってこれたのです。しかし、呉羽校舎へも帰れませんでした。これはなぜかというと、近衛文麿という戦争中に総理大臣を経験した方です。終戦の年の 12 月

に東京裁判がすぐ始まります。そのときに出頭命令が来ました。いろいろ複雑な思いだったと思いますが、いろいろ聞かれて、自分が側近である天皇との関わりをいろいろ取り沙汰される可能性もあったので嫌なことだったと思います。この方は、その前の日に青酸カリを飲んで亡くなってしまいます。これをめぐってたくさんの作品が書かれています。しかし、近衞文麿前総理が東亜同文会の会長をやっていました。これは東亜同文書院の経営母体です。その結果、それがGHQ によって閉鎖されて解散命令が出ます。ということは、書院、呉羽分校ともに財政基盤を失いましたから呉羽にせっかく分校ができたのに閉鎖せざるを得なくなったのです。

10. タッチの差で確保できた豊橋キャンパス－神谷教授のひらめき－

それを本間学長に伝えたら、「内地で新しいキャンパスをすぐ探せ」と、連絡があり、そのときに呉羽分校にいた先生で神谷先生という方がおられました。愛知県の高浜出身です。この愛知県あたりはよく知っています。ここ豊橋に 15 師団、教導学校、予備士官学校がありました。軍縮で 15 師団は大正の終わりに廃止になって、その後、教導学校、これは兵士訓練の学校、それから予備士官学校、これは神宮で学徒出陣の学生たちが大行進になって戦場に向かうというシーンがテレビで流されますけれども、彼らはトレーニングしていないのですから、いきなり戦場には行けないですね。事前に学校でトレーニングを受けます。今の愛大のキャンパスではその時、最後に予備士官学校になりますから、そこで学生を収容して、訓練し、そこから戦場へ行くということになりました。

神谷先生は、その跡地が、空いているというので名古屋の管理局へ行って、それに申し込みをしたわけです。実は当時、前もちょっとお話をしたように、今は名工大、当時、名古屋工業専門学校がやっぱり校舎が焼けてしまってどこへ行くか、豊橋に陸軍予備士官学校跡地がある。さあ、ここへ行こうと、教授会でほぼ決まりかけたのだけれども、建築系の先生方だけが反対をしたのです。それで延期になりました。また、豊橋市はすぐに商業学校にする、今の商業高校です。そういうような動きもあったのです。そのときに名古屋の管理局は、「あなたにやる気があるなら、すぐここに印鑑を押してください」と言われて、印鑑がなくて押さなかったら、もう次の人の順番に回ってしまいます。そこで、この神谷先生が独断で押印したのです。それ以外にもう適当なキャンパスはないということです。これが良かったと思います。こういうことになったのも、やはり「本間先生のマジック」が効いていたといえます。それで、タッチの差で確保してきたのです［8］。

今度は地元で愛大を迎えた政財界側の人達です。

これが本間先生、地元の財界のこれは神野太郎、そして神野三郎、という広大な神野新田を造成した重鎮です。これが横田市長、こっちは先生たちです。後でもう一回出てきます。こういう顔をしています。神谷先生は大きな功績者ですが、後にちょっといろいろなことがあって國學院大学のほうへ移って、そちらで先生をやります。

11. いよいよ旧制「愛知大学」の創設と天皇の裁可

それで、いよいよ新大学を構想するという形が出来上がってくるわけです［9］。1つは、豊橋市の全面協力。空襲で街が焼かれた中で、当時多くのお金を寄付していただいた。今に換算すると恐らく億単位のお金になるのではないかと思います。それから、新城の薬屋さんの富田実平さんにも同じぐらいの額を提供してもらっています。それから、豊橋財界の全面協力、先ほどの神野家を中心にして神野新田をつくった人です。それから、愛知県知事をトップにして県下の企業の寄付体制がつくられました。だから、愛知県の知事も全面的に協力してくれたのです。

さて次は人事です。その人事は、旧制大学相当の人材を集めないと文科省の資格審査に通らないから、そこで本間先生がこの辺のところを、特に書院の先生も含めながら京城や台北の旧帝大の先生達、一流の法曹会人材など他の先生たちも入れて、「法経学部」のスタッフとして揃えます。また大学の名前は「知を愛すー愛知大学」がいいのではないかと、これは神谷さんと本間先生との合意です。知を愛するというのがいいのではないかということで「愛知大学」となりました［12］。

愛知大学そのものは現在、もう70年以上歴史がたっていますから、まさに、その歴史をもっと振り返ってみる必要があります。愛知県は残念ながら文化芸術関係はみんな「名古屋を飛ばし」で、東京、大阪、京都、福岡の順で巡り、名古屋はなかなかやらせてくれない。名古屋はお客さんが少ないのです。戦前から生産県で、戦後はトヨタ自動車の生産第一主義の力もあるのでしょう。大型の工場のシステムが県の中心になっており、みんな夕方、仕事が終わったあとの慰労は誇大にいうとパチンコばかりです。パチンコ屋さんは非常に数が多いです。だから、そういうところへ欧米流にアフターファイブ、アフターセブンの仕掛けで文化場面を持ち込むことはむずかしそうです。文化的ないろんな事業も、それから知的好奇心もパチンコに負けているようです。だから、「愛知大学」は知を愛すという大学ですから、せめて愛知県の知的レベルをぐーっと上に上げるという役割を本間さんは考えたのだと思います。知を愛するというところで頑張らなくてはいけないと思います。いい名前を付けてあるのです。

これは、いよいよ豊橋に誕生した大学の当時の模型です［39］。のちに短大をつくったときの校舎が入っていますけれども、それ以外はみんな昔どおりです。これが私たちのいる記念館です。これがグラウンド、先ほどの市民と一緒に運動会をやったところです。馬術部とかいろいろあります。ここが兵舎で、寮になったところです。寮にはいろいろな名前が付いています。こちらは当時の軍隊時代の講堂です。愛知大学ができたときは講堂兼体育館となりました。今は、新しい体育館がここにできましたから、元の体育館は第2体育館になっています。いろいろ兵舎の跡のところに新しい校舎が今できていますから、昔の兵舎の跡は一部をのぞき見当たらなくなりました。今、ここのところに新しい校舎を建てようとプランが進んでいますけれども、まだまだ先の話です。

これが財界の人たちです。神野家、神野家を訪問した時の写真です［13］。トップの人

たちとの交歓会です。これが横田市長さんです。この市長さんは愛大に責任をきちんと持つ、食糧はサツマイモがたくさん採れるというようなことで、非常に豪気な人でした。この人が全面に受けてくれ、旧制大学としては 6 大都市以外では豊橋に最初の旧制大学の立地が実現したのです。そういう点では大変うれしかった、喜んでいただいたのです。

これもそのワンシーンですけれども、これが豊橋市長、大野佐長という人です[14]。ずっと後に愛大事件というのが起こります（後述）けれども、愛大事件のときに豊橋市警察署の署長でした。当時は市町村警察でしたから、県警はできたばかりで、県警が大変存在感をだしたがっていた時代です。ちょうどそのときの事件だったのです。県警は過剰に張り切りすぎたと思うのです。愛知大学にとってみれば、夜間、学生が学内に侵入してきた不審人物を捕まえたらそれが警察官だったというだけの話ですけれども、解決するのにずいぶん時間がかかって、愛大は赤い大学だといわれまして、大変迷惑を受けることになりましたが、その相手側の張本人です。

私が中学校のときには、この息子さんも同じ学年であって、家に遊びに行ったことがあります。いつもにこやかな方でした。警察署長の時代は、豊橋駅でいつも駅の改札のところに立ってお客さんに演説をしておられました。こういうことに気を付けましょうなどと。だから、いい署長であったと思っていました。愛大事件を通して、また終わってから愛大の先生たちとコンタクトがあって、やはりちょっと後ろめたいところがあったと思います。愛大の先生たちは本間先生を含めて非常に素晴らしいと、そこで署長の息子は 3 人、みんな愛大に行かせますということで、愛大卒業生になっています。そういう人です。

実は、雑談をすると、そのとき駅での演説を聞いたのが、私が中学校の 1 年生か 2 年生の時です。学年別雑誌がありますね、その雑誌に作文コンクールがあったから、駅で客に語りかけるこの警察署長について書いたのです。そしたら、1 等になって、当時はほとんど手に入らない革のグローブが送られてきました。だから、グローブをプレゼントしてもらえるようになった、私としては非常に尊敬していた署長だったわけです。その署長が愛大事件で取り締まりをやっていたと愛大へ着任してから聞いて、えーと思ったりしたのですけれども、これもいろいろな縁です。

本筋へ戻ります。それで、いよいよ大学の設立趣意書が作成され、申請されたのです。これは先ほどと同じ内容になります。吉田茂総理大臣から愛知大学を大学令によって設置する件、適当と認めるのでうまく処理をしてほしいと、そういう文章です。これは貴重なものです。それで、前にも言ったように、当時は天皇が裁可する、承認するわけです。ここにありますね、「愛知大学を大学令によって設立する件に謹んで裁可を仰ぐ、吉田茂」[11]、総理大臣が天皇に対して上奏するわけです。天皇は裁可し、承認と印鑑を押します。押したのはこれです、簡単ですね。本物はありませんよ、本物は文部省にあるものです。朱肉か何かで押したはずですけれども。

ところが、うちの記念センターでいろいろ展示をするときに、これがここしか押し

ていないものだから邪魔だといって、ここだけ切って展示しました。私はそれに気が付いて「これは駄目だ、これがものを言うんだから、ここは大事にしなければ」というわけで、今はこの印付きで展示をしてあります。そういうことがありました。

今の大学は、認可は文部大臣です。天皇ではありません。裁可印を拡大するとこうです。こういうのを付近で持っている大学というのは、ほとんど今はないと思います。

12. 背景としての書院精神のレビュー －荒尾精と根津一そして書院の授業－

ここで簡単に、ちょっとだけレビューをすると、元はというと前述の近衞文麿総理大臣の父である近衞篤麿公に戻るのです。この方が中国の南京で最初に南京同文書院、中国側のトップと交渉をして日清の学生を集めた学校を開くということを協議し決定したのです。これが東亜同文書院に発展していくわけです。左側が荒尾精という方で、右が根津一。この人が貿易実務学校、ビジネススクールというものが要るのだと。協議のさい、近衞篤麿が「中国が列強にやられているのは、教育レベルが低過ぎるからだと、日本は欧米からいろいろな実学を学んでいるから、それを清国の学生に教えたい」、一方、荒尾精は「清国がなぜこんなに弱いのかというと、貿易がほとんどできていない、経済が弱い、そこで日本と清国の間の貿易をやれば両本国のウィンウィンになって、列強に対しても抵抗力を持つだろう」という発想を持った人です。

それで、「南京同文書院」は一応成立したのですけれども、直後に義和団の乱という外国人排斥運動が広がってきて、南京を攻めるということになったので上海へ移動するわけです。そのときに荒尾精による新たなビジネススクール構想の実現というものがあったものですから、それと合体して「東亜同文書院」の誕生ということになっていったわけです。

この人が、荒尾精の陸軍大学校のほとんど同期の人、根津一ですけれども、明治期前半の教育システムが非常にまだ不十分だから、軍隊の中でいろいろ勉強した人です。後で荒尾とともに 2 人とも軍を辞めます、軍籍を取り去ります。根津一は長いこと書院の院長を務めています。

荒尾精の考え方、これも前にちらっと言ったと思いますけれども「石鹸」です。体を洗うソープ、石鹸は自分の体を減らしてまで相手をきれいにする、きれいにすることよって自分の体を減らしていく、そういう精神で社会へ出ても相手も考えながら頑張る、そういう経済人になれと、そういう教えです［10］。

前の話の復習になるかもしれませんけれども、同志社の学生の話が一件あります。この荒尾精は日清戦争に反対し、その後、京都の東山に住んで、禅の修行をしていたのです。同志社の新島襄の墓がすぐ近くにあって、同志社の学生が時々遊びに来て、その一人がある時、「同志社の先生以外で一番尊敬するのは荒尾先生です」と、卒業のときのあいさつに来たのです。それで荒尾精は、これは横書きですけれども、縦書きの「石鹸」という文字の書を彼に与える。彼は網走の刑務所の教誨（きょうかい）師になって、赴任する時でもあって、あいさつに来たのです。荒尾はそれを見送ったのですけれども、その方が後に同志社へ戻ってきて総長になる

東亜同文書院の精神をみる

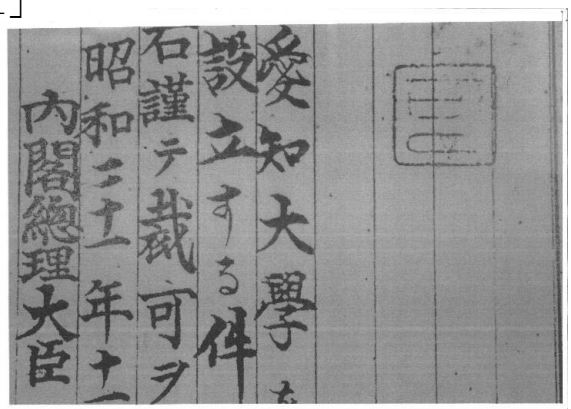
近衛篤麿公

荒尾東方斎先生書

［10］

根津山洲先生書

［11］



愛知大學を
設立する件
石謹テ裁可ヲ
昭和二十一年十一
内閣總理大臣

荒尾　精先生

根津一院長
初代・第3代院長

［12］

E. 新大学構想（II）

昭和20年8月15日 終戦

昭和20年5月 帰国
わずか6カ月
構想と申請

呉羽校舎放棄
新たな大学あり方
本間院長の人事
書院がバックボーン

昭和21年11月15日『旧制愛知大学』認可

新学長→林毅陸氏へ
本間喜一→2代目学長へ

［13］

［14］

記念式典で大野佐長、神野太郎両氏と共に

牧野虎次総長だったという一件です。だから、荒尾は同志社総長も育てたのです。

これは根津先生の書です。「至誠如神」、要するに誠の心を伝える、それはまさに神様と同じようなものだ、そういうような思想を持った人です。儒教の思想家です。根津先生の授業は書院必修科目で「倫理」を教え、共存共栄を考えられる事業人になれるという授業です。書院卒業生に雇用された現地人からは、高く評価され、よい労使関係であったとされています。

これは東大の工学部を出て船会社に勤めていた方が、もう 4〜5 年前です、東亜同文書院のことを知って、長崎と上海の間を行き来して学生を乗せていたのが「上海丸」だということで、戦争で沈没した上海丸を復元し、寄贈してくれました。

いろいろな、書院の院長写真です。これは左側が近衛文麿、自殺した元総理です。右は大内暢三という近衛篤麿公の付き人、秘書をしました。大内は世界中、近衛さんが行くとみんなついていった。だから近衛さんとはツー・カーの仲です。九州の出身で、この大内院長から大学に昇格し、学長になっています。初代の学長です。

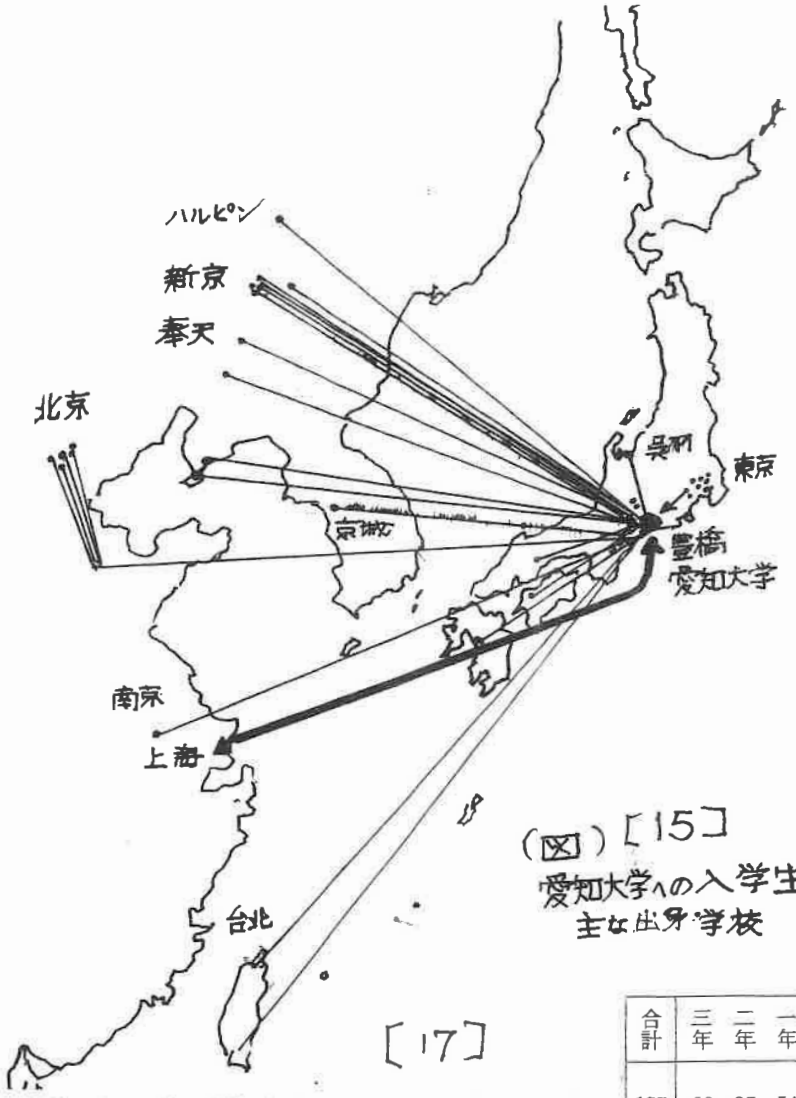
それと、中国側も書院の 20 周年記念のときに黎元洪（れいげんこう）という中華民国期に大総統になったから、こういう揮毫（きごう）を寄せてくれたのです。この人は、辛亥革命で清国が革命軍に負けてしまったときの清国側の漢口で戦ったリーダーです。革命軍は勝ったけれども、軍隊内には有名人がいない。あの国はメンツの国ですから、そこで有名な「おまえがなれ」と敵対していた向こうの大将を自分たちの大将にします。中国は情報を非常にうまく使う国ですから、全国に向けて革命軍が勝ったという情報をばーっと流していったものだから、清国側の軍隊は「えー」というようなことで力が抜けてしまったわけです。あの国は、そういう PR が非常に上手な国です。今もそうです。そういうような珍しい生い立ちを持つ人で、次々に昇格し、大総統にまで登りつめました。これが記念センターにそのまま大きな額縁で置いてありますので、中国、台湾から来た来客たちが、何でこれがここにあるんだといってびっくり仰天するのです。

孫文なんかも、こういうふうに学生たちの旅行に対して揮毫を送ってくれました。これが今本学記念センターに展示してあるので、ぜひまたご覧になっていただくといいです。

中国語の元は、御幡（おばた）という中国に留学して長崎に戻ってきたときに荒尾精と出会って、荒尾精に中国事情から中国語までを勉強させた人がスタートです。

書院の学生たちは語学を中心にして、中国語を学びます。戦後、愛知大学へ入学した学生諸君は、かつてはこの前のこの授業で紹介したように、例えば、愛知県出身の上級生が 1 年生を相手に朝昼晩とトレーニングを受する仕組です。これを念書といいます。

また、中国人と日本人の先生がペアで中国の授業を担当する、こんな感じでやりました。これは、前回やりましたね。学生たちはこんなにも各地を旅しています。従って、膨大な情報を書院としては集めて、これが中国研究の総合大学として大学へ昇格するきっかけになっていきます。従って、そういう人たちが戦後、敗戦とともに中国から帰国、多くは愛知大学に来たのです。この赤いラインは書院の人の軌跡であります。それ



（図）［15］
愛知大学への入学生の主な出身学校

〔表〔16〕〕一九四六年度　予科転入学者の出身校

合計	三年	二年	一年	
157	66	37	54	東亜同文書院
11	3	2	6	北京経専
10	3	6	1	台北帝大
7	4	3	0	満洲建国大
6	1	2	3	日本大学
6	1	0	5	皇学館大
5	1	1	3	明治大学
202	27	59	116	その他
404	106	110	188	合計

〔出典〕『十年史』二十九ページ

［17］

〔写真Ⅰ－20〕愛大新聞第1号　題字および学長発刊の辞
(1948. 9 .15) 林毅陸学長の辞

から東京からも、関西からも、学生たちも法政とか日大とか明治とかの大学生も豊橋へ集まって来て、愛大は「引揚げ総合大学」といわれました［15］。ここに呉羽校舎がありましたけれども、この人たちも愛知大学へ入学し、愛知大学が誕生しました。

13. 旧制「愛知大学」入学生たち

そのときの学校はどんな学校があるかというと、ちょっとこれも映りが悪い図です、申し訳ない。元はきれいですけれども、時間がなかったのでガラスケースの中に入っている図を、そのガラスケースの上から撮ったため、画像がぼけてしまいました。申し訳ないです。八十幾つの学校から愛知大学へみんな来たのです。私の作った図です。

愛知大学開学当時の様子は、この写真です。これは1946年ですからいよいよ開学したときです。終戦の明くる年のことです。予科という、戦後の新しい教育で言うと教養部の辺りに当たります。予科に入る［16］。この予科を終わった後、学部へ進学するわけです。その最初の入り口のところへどういう人が入ったかというと、東亜同文書院の学生は1年、2年、3年、予科も3年制で入ります。いろいろ途中で学徒動員に行ったりしていましたから、元の学年に戻るということになります。それで157人。一方、北京経専や工業系専なども統合して、東亜同文書院は、やはり総合大学化を狙っていました。かつて書院は農工科というのをつくりました。第一次大戦の不況でつぶされたのですけれども、その後はやはり総合大学を目指して上海、北京に工学部系と経済専門学校、そういうものを吸収しています。その原型が北京経専から11人、それから台北帝大から10人、満州建国大学というのは満州の大学を出た後の大学院みたいな、官僚になる人7人。そして、日大、皇學館、明治、その他が200余人、合計404人が最初の予科に入ってきました。この後、順番にずっと入ってくるのです。

これは、2年度の場合だったら予科の新入生はどうなるかということですけれども、希望者が殺到するわけです。特に1年生で1,093人です。ところが、合格したのは234人です。たくさん来たからといって全部入れると、レベルの問題も含めてなかなか大変だということで、入るときはかなり厳格だったのです。だから、当時、愛大に合格した人はなかなかよくできた人だったと思います。編入でこれぐらい入ってきますけれども、1,000人のうちの234人しか合格者が出なかったです。

14. 素早かった愛知大学認可と本間先生

そういう人たちが、さっきの市民との交流をやったわけです。これは前述した復習です。

この新聞も愛大は引揚げ学生の大学だと書いてあり、そういう特徴があったわけです。

新大学構想の次のII番目としましては、終戦を迎えて、ちょっと復習にもなりますけれども、本間学長達は、上海から昭和21年5月に帰国をした。それで同じ年の11月15日には、わずか6カ月で文科省に新しい大学の構想と申請ができてしまう（実際の内定は3ヵ月目）。半年もかからないで、これはまたびっくり仰天です。なぜかというと、先ほどの「**本間マジック**」ですけれども、呉羽の校舎の先生たちは呉羽校舎がもう近衛

文麿が自殺したから学生はいなくなったけれども、その後も教授会はずっと続けました。そこの議題は、新しい時代の大学の在り方をめぐっての議論で、ずっと毎回教授会で沢山議論が練られて、そこで多くの構想をもって書類も作られたのです。それと、帰ってきてから本間先生が急遽実施し、やった最高レベルの人事。これは、書院がバックボーンにありますけれども、こういうことがあったから申請が簡単にとは言わないけれども、できたのです。だから、一発で通りました。その同じころに出した二、三の大学は駄目だったのです。そういうことで、そんな短い間でできたのです。

それで、旧制の愛知大学として認可されて、先ほど言いました林毅陸という元慶應義塾の塾長だった先生を初代学長に引っ張り出してきて、本間先生ご本人は 2 代目からです。本間先生は、学徒出陣を認めてしまった責任をとったのです。

これが、林毅陸学長です。なかなかの経歴の持ち主です。世界中あちこち出掛けて勉強をした方です。

これは本間学長、一緒に写っているのは娘さんで殿岡晟子さんといいます。今はもう 80 代のなかばぐらいかな、本間先生の面倒をずっと見たのです。本間先生、学長が公館で生活しているときにもです。若いときからやはり中国との関係があったから、早くから風水の勉強をしています。今は、週末は新宿でそれこそ、歌舞伎町だったか、何かすごいところで手相見をやっています。よく当たると自分で言っていました。そのころまでは渋谷のママと言って渋谷でやっていたのです。ウィークデイは老人福祉施設などいろんな施設に行って、ただで手相を見てあげるという、そういうボランティアをやっています。なかなかしゃきっとした女傑の方です。記憶力もお父さんに似ているせいかな、私なんかこの年でもう色々忘れるのですけれども、昔のことを画像を見るがごとくおっしゃられますし、いろいろ教えていただいています。

あと、本間先生はこういうわけで、その後、最高裁の事務総長に抜擢（ばってき）され、2 年間で戦後の最高裁の民主化を実行した人です。早くから今のディズニーランド、東京ディズニーシーの漁業権の問題で漁民を保護されてきました。三河港では大崎漁場の問題も弁護されました。それから、女性の権利も戦前の段階で一生懸命やった人です。そういうふうにフリーに物事を考えた人です。だから、愛知大学も学問だけではなくて、こういうような幅広いいろいろなことができました。

愛知大学は、前に言いました学長は理事長を兼務しています。だから、学長選挙のときには、学部の先生が選ばれて理事長を兼務されています。だから、多くの場合はみんな学問の先生ですから幅が狭いです。その社会性をどう身に付けるかということになると、そう簡単ではないです。だから、そういう方が同時に経営者になっていますから、やはりトレーニングが必要です。そのモデルは本間先生を見るといつも思いますけれども、こういう何でもの歴史、何でも参考になることは吸収しよう、そしてそこから先をどういうふうに見ていくかみたいな力を、時代の中で身につけられたとも言えます。ベルリン留学も先ほどありましたが、その他国内でも一橋になる前の東京商大の白票事件とか、いろいろなものにからんで、しか

も上海で敗戦処理、閉校の処理もしたわけですから、そういう点では紛れもなくスーパーマンです。農家の人を百姓と言いますけれども、あれは百の仕事ができるという意味です。本間先生は、だから百姓です。

これは本間先生から呼ばれてきた優れた先生たちのその顔写真です。これを見ると名前が浮かんできます。ちょっとなかなか分かりにくいと思いますけれども、その道のトップクラスの教授たちです［27］。とにかく旧制大学で教授という形で申請しているわけですから、しかも、それが一発で通りましたから、そういうような人たちを、本間先生はそれを熟知した上でやれる見識と人格があったということです。

それから、本間先生は 3 回火事に遭っていますから、先生の遺物が少ないのです。3 回。ベルリン時代は、古本屋さん、ここから先の壁ぐらいのところまで本を購入したそうです。当時、インフレですけれども日本円は強かったですから、全部買ってきたそれらの本が残念ながらみんな焼けてしまったそうです。これは六法全書で、本間先生が編集している版です。こういう現物もなかなか見つけられないです。

これは、先ほど言いました本間先生が最高裁の事務総長になったときの任命書です［24］。そのときの裁判長は最高裁三羽がらすのうちの 2 人、「田中耕太郎」と「三淵忠彦」で、もう一羽が「本間喜一」です。本間先生は三淵先生を大変尊敬しています。田中耕太郎、この人に対してもそういう気持ちです。だから、愛大ができてから、こういう人たちが愛大へ来て講演をしてくれたのです。これは本間先生の力です。当時相当立派なことだったと思います。

これは、東亜同文書院時代の本間先生ですけれども、高垣寅次郎という東京商大の、一橋大学の前身のときの教授です。こういう人たちも片っ端から招いて東亜同文書院大学で集中講義を担当されたのです。そういうわけで学生の本間先生への信頼は非常に高かったです。

もう一つ、これは戦前の話ですけれども、ちょっと分かりにくいかもしれませんけれども、フェンシングです。こっちが剣です。本間先生は法政大学に講師に出ておられましたが、戦前はいろいろな大学へ出かけられ、旧制大学の先生もみんな授業を平等に各大学へ行って授業をやっていたようです。今とだいぶ違います。そのときに、法政大学へ行ったときにフェンシング部の部長に任命されます。フェンシング部は日本で最初です。法政大学に最初にできて、しばらくしてから慶應がそれをまねしてできて、それで試合ができるようになりました。いわば先生はフェンシングの創設者です。戦前の 1940 年の幻の東京オリンピック、戦争で流れてしまいましたが、国内では剣道があるという理由ですぐには受入れられなかったのですが、先生は国際的ネットワークを使い、正式種目にまでしたのです。本間先生はすごい人ですね。だから今は、日本はフェンシングがだいぶ若い人が強くなっていますけれども、本間先生のおかげです。

これは、本間先生の後の小岩井先生です［26］。この先生が学長を継いだのです。

15. エピソード

それで、旧制愛知大学がいよいよスタートした、私がまず 1 番目に思うのは、やはり学生たちの活躍です［19、22、23］。最初

［18］

F. 旧制愛知大学のスタート

1. 学生達の活躍→豊橋を文化都市へ
2. 新制名大人文社会系学部との合併を拒否
↑ 書院からの伝統 私学としての自由を
3. 愛大事件
4. 山岳遭難
} 本間学長がクリア
↳ 但し 新学部 農 水 工 医 付 幻K

［19］

大学予科生徒　1949年　予科学生（昭和 24 年）

［21］
愛大豊橋学生同盟
（竹生節男氏・画）

［20］

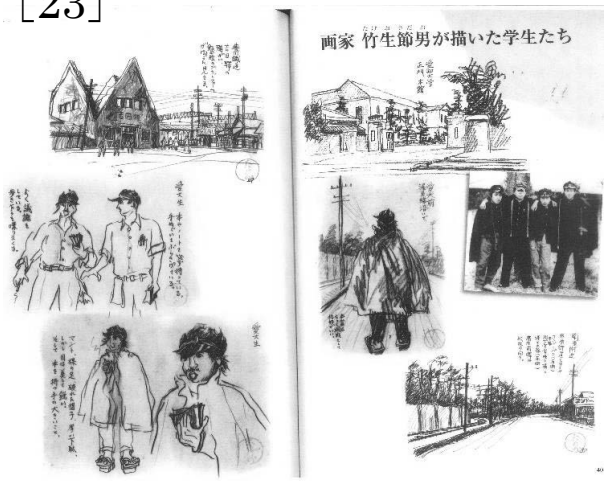
愛大校章

［22］

大学予科生徒　1947年頃

初の女子学生 4 人

［23］



竹尾氏が描いた愛大生と愛大

（思草寮）

第二代学長 ――― 一九五〇―一九五五年 就任
第四代学長 ――― 一九五九―一九六三年 就任

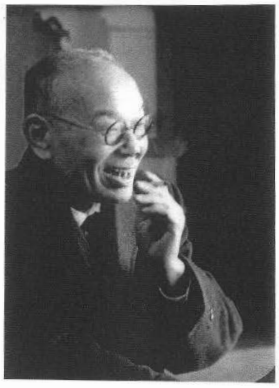
本間喜一

ほんま・きいち

弁護士の弁護士 本間喜一、もう一つの顔

[24]

愛娘の殿岡晟子さんと



●略歴

1891(明24)	山形県東置賜郡川西町に誕生
1915(大4)	東京帝国大学法科卒業
1917(大6)	検事・判事に就任
1937(昭12)	弁護士に就任
1940(昭15)	東亜同文書院大学教授
1944(昭19)	東亜同文書院大学長
1946(昭21)	上海より帰国、愛知大学の創立活動開始→認可
1947(昭22)	最高裁判所初代事務総長
1950(昭25)―1955(昭30)	愛知大学長(2代)
1959(昭34)―1963(昭38)	愛知大学長(4代)
1963(昭38)	愛知大学名誉学長
1965(昭40)	勲二等旭日重光章
1987(昭62)	死去

愛知大学創立の中心人物である本間喜一の活躍、学長時代のエピソードは他のところでも紹介されているので、ここでは本間喜一のもう一つの顔を知ってもらいたい。

長女の殿岡晟子さんの思い出話を交えて

父・本間喜一は教育者であるが、弁護士でもあった。一般のチイサイ事件は引き受けなかった。つまり、弁護士の弁護士であった。よく弁護士の先生が、父に話を聞きにみえていた。

あれは、昭和三七年頃だったと思うが、帰宅した父が私に「晟子、紙の育広の内ポケットに、千葉の富津漁業組合へ渡す、四億円の小切手が入っているから……」と、指をさすのは桐の大きな洋服タンスであった。そうすると気になって、つい、目がそちらにいってしまう。

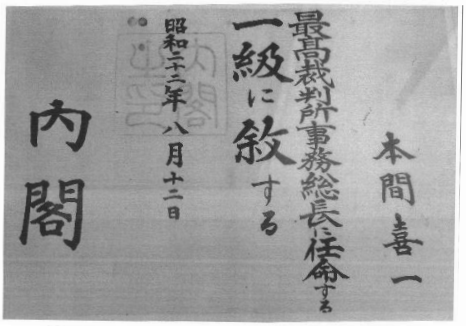
本間喜一は全国貝海苔漁業組合の顧問弁護士であった。

このお金は、千葉の沖で油を垂れ流して逃げたアメリカの船が、漁民に支払った賠償の小切手であったらしい。

また、四国の徳島市と漁民による戦いでは……

父は、笑って「心配するな、お金は必要経費だけでいいんだよ。市のハナをあかせてやるから」と申し、仕事を始めました。四国の徳島まで出かけて行き、現場を見、漁民と親しく接して、話を聞き市に宣戦を発しました。「パパ！　まるで、佐倉宗五郎よ。強きを挫き、弱きを助けというところね」。私の言葉に父はポーッと、顔を赤らめるのが常でした。勿論、父は勝ち、漁民達は大喜び。それから毎年、名産のすだちが、送りつづけられています。

本間喜一は、数え年一三歳で、雪国山形から上京した。そんな彼が晩年を過ごしたいとあこがれた土地がある。それは静岡県三ケ日、豊橋にほど近く、おだやかな日差しや太平洋とつながる浜名湖にひかれた本間は、できることなら「老後は三ケ日で晴耕雨読を」と望んでいた。実際、仕事に追われる毎日の中でこの計画は実現することはなかったのだが。



最高裁事務総長への任命状

初代学長 ――― 一九四六―一九五〇年 就任

林毅陸

はやし・きろく

慶應義塾大学から愛知大学へ

[25]

林毅陸初代学長は、就任当時七四歳。

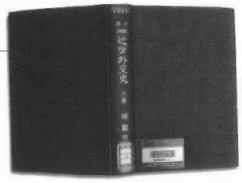
物度も断った後の学長就任であったが、「名義だけの学長は深しとせず」と、熱意をもって学校運営にあたった。

初代学長就任のいきさつ―林の決意―

一九四六（昭和二一）年六月末、本間喜一は東京の林宅を小岩井浄らとともに訪ね、新大学を設立して海外からの引揚げ学生を収容したいという、切実な願いを明らかにした。また、林が東亜同文会（東亜同文書院大学の経営母体）理事を務め、かつ同会清算人の一員であるという関係上、引揚げてきた学生たちの将来に対する責任について触れ、林を説得した。この時の本間は、容易なことでは後に退くまいとの気構えであったといわれている。林は「学生の将来に対する責任」の一言に心を動かされたらしく、「よろしい。お引き受けしましょう」と、緊張の面持ちで承諾したということである。

（左から）少年時代、青年時代、ヨーロッパ留学時代、代議士時代

林 毅陸 著『欧洲近世外交史』上巻
1920年増補3版、慶應義塾出版局



山田三良は「君の畢生の事業は明治41年に上梓された『欧洲近世外交史』3巻であって、本書はまさにわが国における欧洲外交史の嚆矢とも称すべき大著作である」と賛賞している。

林毅陸の書「一誠以貫百行」

弘堂は林の号であり、この言葉は林の性格を示しているともいえる。

林毅陸は日本における欧州外交史研究の開拓者というべき存在であるが、研究者としてだけでなく、政治の世界でも活躍した。一九一三（大正二）年に陸海軍大臣現役武官制が憲政運用上問題ありとして、山本権兵衛首相に鋭く質問した結果、同制度が廃止されるという業績をあげた（一九三六年復活）。林の演説は清澄の美声であると同時に相当の迫力もあったといわれ、元老・西園寺公望は林の弁説について、上品で文辞も整い立派なものだと、しばしば賞揚したと伝えられる。

一方で、一九一九年にはベルギーで開催されたブリュッセル万国議院商事会議に衆議院より派遣され、一行の団長を務めた。また、同年開催された、第一次世界大戦の講和会議であるベルサイユ会議に日本全権一行の一人として参列し、一九二一年にはワシントン会議の全権委員に随行するなど、海外でも活躍する国際人だった。

●略歴

1872(明5)	長崎県東松浦郡田野村(現 佐賀県唐津市)に誕生
1889(明22)	香川県の漢学者・林源三郎の養子となる
1895(明28)	慶應義塾大学文学部卒業
1896(明29)	慶應義塾教員に就任
1901(明34)	ヨーロッパ留学
1905(明38)	帰国、慶應義塾大学政治学科教授に就任
1912(明45)	衆議院議員に当選
1923(大12)―1933(昭8)	慶應義塾塾長と慶應義塾大学総長を兼任
1936(昭11)	東亜同文会理事に就任
1946(昭21)	愛知大学初代学長に就任
1950(昭25)	死去

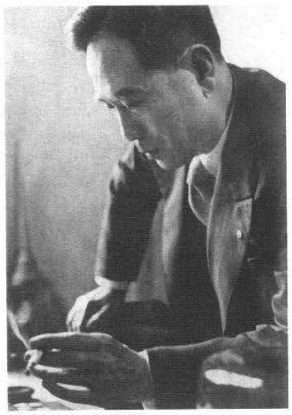
第三代学長――一九五五―一九五九年 就任

小岩井 浄（こいわい じょう）

（本名 きよし）

大正・昭和期の社会運動家 ヒューマニズムに徹した生涯

[26]



碁を打つ初段、実力2段？

●略歴

1897(明30)	長野県東筑摩郡島立村（現 松本市）に生まれる
1922(大11)	東京帝国大学法学部仏法科卒。関西大学講師となり、大阪労働学校に関係する
1923(大12)	関西大学辞職、弁護士開業
1933(昭8)	上京、日本政治経済研究所を開設
1940(昭15)	中国にわたり、上海経済研究所副所長となる
1942(昭17)	東亜同文書院大学講師となり、44年4月教授となる
1946(昭21)	愛知大学創立と同時に教授となる
1949(昭24)	愛知大学法経学部長兼学監
1955(昭30)	愛知大学学長となる
1959(昭34)	死去

少年時代(右)

愛知大学創立者の一人、小岩井浄は一八九七（明治三〇）年、長野県松本市に生まれた。英・仏語が得意で外交官を志願していたが、中国旅行で民衆の悲惨な現実に触れたことが、社会運動へ進む契機となった。

一九二二（大正一一）年、東京帝大法学部卒業と同時に弁護士資格を得、農村の人達の力になりたいと大阪へ行く。関西大学の講師などをしながら、小作争議の弁護、労働運動の指導者として活躍する中で、五度の獄中生活を送る。大阪市議会議員、府議会議員（獄中から当選）、衆議院選挙立候補など彼の経歴は波乱に満ちている。また、「中央公論」「改造」などに執筆し、中央論壇に影響を与えた。

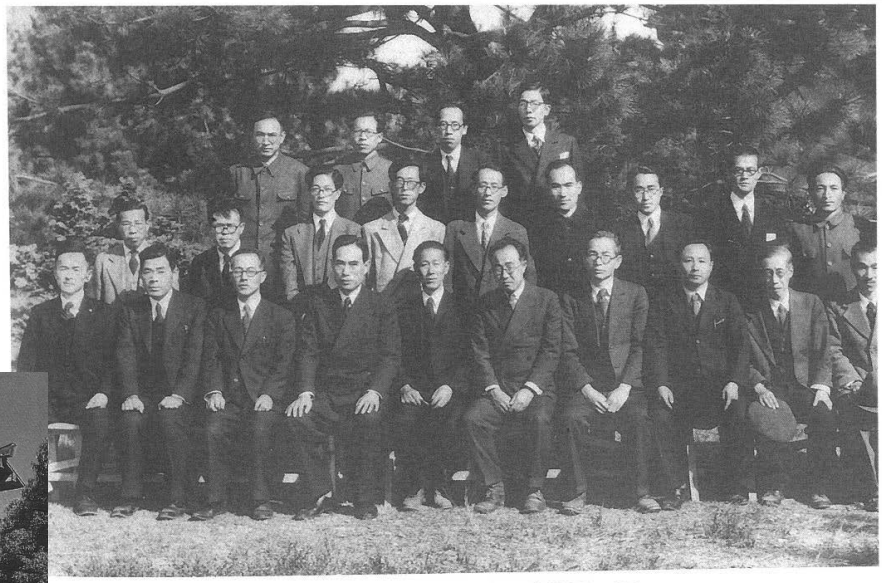
大阪市議選の応援者と共に（1929年）

当時の活動を偲ばせる次のエピソードがある。一九五七（和三二）年、愛知大学主催の講演会が松阪市で開かれ、数十の農民が歓迎会を催した。その一人一人が、彼の前で畳にすりつけんばかりに頭を下げた。死刑をまぬがれた者、今では二人の孫を持つ者など、次々と現れ感謝の言葉を述べた。

一九三八年以降は、日本での活動に終止符を打って上海にたり、東亜同文書院大学で本間喜一との深い絆が結ばれることになる。

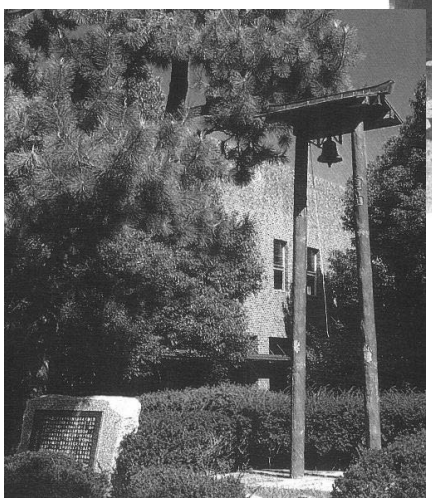
軍国主義の政治状況ので、小岩井浄は日本を代する輝かしいインテリゲチアとして存在し、錚々る進歩的な研究者、学者深い交友関係を持った。らとの敬愛と友情が愛知学創立時に、本間喜一と岩井浄の創る大学なら援しようという協力につがっていった。

[27]



当時の教職員一同

[28]



現在の「自由・受難の鐘」（豊橋校舎）

にお話したように、豊橋を文化都市にしようと学生たちが発想し実行したというのはすごいですね。

(1) サツマイモと停電

しかし、当初は食糧難の時代でした。その代表はサツマイモ、食べる物がないから、大変助けられました。当時食料難でしたから学生、寮生もそして先生たちも本当に苦労しました。そして夜は、電気が夜 1 時間ぐらいしかつかないです。だから、宿題なんか出ると大変です。終わらないうちに暗くなります。だから、わが家も父が小さいバッテリーを買って、小さい明かりでやりました。それでも明るかったのを思い出します。

学生たちも寮がやはり停電になるから、どこへ行ったかというと、みんな歩いて豊橋駅へ行くわけです。駅はずっと明かりがついています。そこで勉強したのです。そういう苦しい生活の中でサツマイモとの出会いです。これは、この辺の特産でしたから、これで飢えをしのいだのです。

(2) 新設予定の名古屋大学からの合併案を拒否

それから、新制の名大の人文社会系学部との合併を拒否したことです。名古屋大学は旧制大学でが、それは戦時中に軍事のための研究をした理工学部としてつくられたのです。それで、戦後になって名古屋も少し復興してくると、名古屋の財界のほうから名古屋大学は理工学部しかない、あと人文社会学系がない、それをつくりたい、つくってほしいという要望が出てきたわけです。そこで、名大側としては、そうはいっても図書がない、人材がないです。図書は、先ほども言いましたように神宮皇學館がつぶされて、そのときに図書がたくさんありました。日独伊防共協定が戦時中からありましたから、ドイツとかイタリアの本が入ってきました。だから、それをベースにすれば名大は法経学部とか文学部ができるのではないかという話です。本はいい、しかし、人材がいない。見たら豊橋に旧制の大学として愛知大学ができた、あそこと合併したらいいのではないかと、取り込んだらいい、そういう発想です。

そこで、愛大側としてもびっくり仰天して、先ほどの第二講堂へ教職員と学生がみんな集まって何回にもわたって会合を開くわけです。その結果、結論から言えば、われわれのほうは書院からの伝統がある、名大はまだできていない、海のものとも山のものとも行く末は分からないと、もっともだと思います。だから、書院からの伝統のほうを引き継ぎしました。もう 1 つは、戦争中を考えると国立大学というのはみんな国の指揮の下にあって自由な研究というのはみんな制約された。追放された先生もたくさんいます。そこをずっとやってきた私学としての自由は大切だということです。基本的にこの 2 つの理由でこれを拒否しました。こういう話を学生にすると、「いや、先生、名大になっておけば良かった」と、そんな人もいますが、だけど当時としては名大には形もなかったのです。そういうようなことで、教員と学生が合意したのです。書院出身者側にはプライドもあったことでしょう。これに関してはほかに若干の幾つかの理由がありましたけれども、基本的にはそういうことで決着です。

(3)「愛大事件」

3番目としては、先ほど言いました「愛大事件」がありました。これは、戦後前述したような形で市民との交流を主に順調に交流しはじめたときに起きたのが愛大事件です。先ほども言いましたように夜中のグラウンドで2人の不審者を学生が捕まえました。私共の記念センターのほうに越智さんという方が来られますけれども、市内で床屋さんをずっとやっておられた方です。この人も愛大の卒業生で、当時2人の警察官だと分かったんで、色々写真で撮っていたとのことで、それらを見せてもらったことがありましたけれども、明らかに警察側の、スパイ行為です。警察官の愛大侵入の当時、全国で学生運動も盛んになりかけていました。東大ではポポロ事件が起こっていました。愛知大学は新しくできたばかりの大学なのにというので地元大手新聞なんか大騒ぎでした。しかも、その地元大手の記事は最初のほうは大変間違っていました。大変間違った記事を載せて、のちまで風評被害を愛知大学が受けたのは残念でした。

だけど、本間先生は学生の証言の方を信じました。そして、本間先生が「学生は三親等の中の学生だ。だから最後まで面倒を見る」と言って無罪まで弁論で持ち込んでいったわけです。しかし、少し時間がかかりました。そういう点で愛大が払ったツケ、ほんの一瞬の出来事が愛大事件になって、農村が多かった東海地方では、東京では問題にならなかったこの種の事件なのに風評が広がり赤い学校だといわれたりしました。それを払拭するのにずいぶん時間がかかりました。私も愛大に赴任したころは、地理学をやっているからあちこちで結構、いろいろな地域での地域づくりとか、いろいろな講演を頼まれて出かけましたけれども、ある時、会場近くを通りかかった農家の人が「おい、大丈夫か、愛大の先生なんか呼んで。赤い先生と違うか」などと話すのを聞いて、びっくりしたことがありました。田舎のほうに行くとそういうことが当時まだありました。その点では情報の流され方というのは非常に大きな影響を与える、ことを知りましたし、「知」を「愛する」努力の不足を感じました。愛大にとってはこのことはちょっと不幸でした。県知事をトップに寄付金の募集をやっていたときですから、残念なことでした。

(4) 薬師岳山岳遭難事件

次は山岳遭難、薬師岳です。これも、この年は三八豪雪の大雪で、この東海地方にも30センチぐらい雪が積もったのです。皆さんも経験があるのではないかと思います。あのために中国地方、山陰地方は、ひどいときは10メーターぐらい雪が積もりました。2階があっても出入りができなくなりました。みんな死ぬかと思ったわけです。ヘリコプターも雪が多くて食料を供給できないです。雪がようやくやんだ後、多くの人たちが一斉に村から大阪に出ていく、広島へ出ていくというわけで、いわゆる挙家離村のきっかけで、これが戦後日本の山間地域からの人口流出のはしりとなったのです。

そのときに愛知大学山岳部の学生たちが1年、2年を中心に、3・4年生は試験があるから参加できず、そういうちょっとベテランがいなかったときに雪が1カ月降り続いた中で北アルプスへ登山に出かけたのです。しかし、下山がなく、大騒ぎになりました。

本間学長が最初は「帰ってきたら、みんな丸刈りにする」と言っていたそうですけれども、全員 13 人、これは山岳事件としては戦後最大規模の大事件になってしまいました。各新聞社から、豪雪の中、ヘリが飛んだり、愛大 OB はじめ、いろんなところの山岳部、各地のチームなどがいっぱい協力してくれたのですけれども、結局最終的には全員死亡で発見されました。その時、本間学長は、それへの対応処理を一生懸命やりました。**「命は地球よりも重い」という名言**が残っていますけれども、そういう**本間先生の名言**で全国から義援金がいっぱい集り、捜索費をはるかに上まわる額になりました。余った分はどうしたか、これは今ある富山と長野の山岳遭難対策警備隊の創設費の基金として寄付したのです。これもやはり本間学長の知恵です。これをみると、いかにリーダーの指導力と発信力、行動が重要かということがよくわかります。本間学長はそのモデルになります。

（5）本間学長の新学部構想

本間学長は、そのころ考えていた新学部というのは農学部と水産学部、これは農工科というのは書院が持っていたのです。水産学部は三河港で本間学長は漁民と関係がありました。医学部というのは、地元国立病院はずっと 15 師団以来の大きな病院でした。それとくっつけたらどうかという構想です。それから、付属高校です。これも岡崎につくる、調印の直前までいったのですけれども、本間学長が山岳遭難事件の責任をとり、学長を辞任したためすべて立ち消えました。みんな本間先生がずっとやるつもりでいたから、学長の受け手として帝王学をやっていた先生が一人もいなかったのです。だから、あと引き継いで学長になった先生も大変です。どうしていいか分からない。そういう点で、本間先生には辞任しないでほしいという強い要望があったのですけれども、やはり弁護士でもあった先生ですね、責任をきちんと取るということです。愛知大学はそのおかげでちょっと足踏み状態のときがありました。これはもったいないことをしたのですけれども、だけど、そこに行く間には新しいいろいろの問題もありました。

うちの先生に酒井という法律の先生が愛知大学史を検討するだけの時間が生まれ、その後にこんな文章を書いています。会場の皆さんにちょっとプリントしておきましたけれども、世界の大学史から愛知大学の成立のそういう経過から言うと、世界を見ればすごいことで、ベルリン大学と同じだと、ドイツのさっき言いました戦争に負けた状況もふまえてです。プリントでお読み下さい。

（6）愛大学生による豊橋学生同盟

入学した学生たちもやはり活発でした。こういうふうに有志が「豊橋学生同盟」というのをつくって、豊橋駅に詰めていて、海外から引き揚げてきた人たちの面倒を見ています。これは舞鶴、大陸から戻ってくる人たちがみんなあそこに上陸します。「岸壁に母」の唄で有名な港です。そのところにも出掛けて行って支援しており、現地の記念館には、「豊橋学生同盟」という記録が残っています［21］。豊橋駅を中心にしてそういう活動をしたのです。あちこちの外地から帰国して人々が戻って来る。学生自分たちもま

た外地から来たのですから、そういう人たちの面倒を見ようじゃないかということでやったのです。舞鶴の引揚げ者記念館には愛大の「豊橋学生同盟」の活躍も展示されています。

（7）竹尾画伯の愛大生とキャンパスの絵

これは絵描きさんが愛大生や周辺風景の絵を描いて残してくれています。寮にはこういうふうに「翠嵐寮」とか「思草寮」「学生寮」と名前が付いて、すてきな名前だと思います。これは竹尾さんという方の絵で、当時の雰囲気が伝わってきます。バンカラですね。これもそうです。寮は毎年お祭りをやって、当時は寮を中心に動いていました。

（8）寮生たちの「黒部の太陽」エキストラ出演

これは、寮生の人たちの活躍の一部です［35］。この写真の中央はなんと「石原裕次郎」そして「三船敏郎」です。なぜかというと、「黒部の太陽」という映画があったでしょう。時々再放送されます。最後のほうでトンネルの中で水がいっぱい出てきて大変なシーンがありますけれども、あの大騒ぎになった時のスタッフが愛大の寮生たちのエキストラです。富山まで行ったことがあるということはなくて、どこで撮影したかというと豊川に戦前、海軍工場があった跡に戦後できた熊谷組です、あの一角をセットにしてみんなで出演したのです。それで、愛大の寮生たちが沢山この映画に出演したのです［35］。だから、あの映画が上映されるときには、ぜひ見てみてください。愛大生は当時、みんな懸命に走り回ったためかスマートで寮生たちは大変元気で、色々な活動もしており、ロケにも招かれたのでしょう［36］［37］［38］。

それで、思いっきり勉強して、一生懸命研鑽（けんさん）したのです。勉強する人が非常に多かった。

これは授業ノートです。ここに何冊か展示してあります。ノートには熱心に学んだ証がみられます［29］。前述した越知さんのノートです。見た人たちは皆驚いています。

これは昭和 26 年です。26 年ですから 22 年入学ですか、この人たちが本学前で卒業式後の記念写真です。当時はこれだけの学生でした。

（9）全国寮歌祭 in 愛大

やはり寮にも寮歌ができました。本間先生が愛知大学の「旧制愛知大学予科」は全国寮歌祭に加盟できる筈だと卒業生にプッシュして、参加できるようになりました。そして、これは豊橋、愛大でやったときに全国の寮歌祭［34］。今でもやっています。これらは旧制高等学校です。旧制高等学校は多くが年をとり、なくなっています。面白いことに愛大が今こうやって生きているから、これを支えるのは、愛大の卒業生しかいないのです。世代交代です。だから、今、愛大の卒業生の人たちが全国の寮歌祭を支えています。面白いですね、一番最後に入れてもらっているのですよ。

そういうわけで、最初のころのキャンパスの様子です［39］。キャンパスも変化しています［40］。こういうのも模型で作っています。

（10）「自由・受難の鐘」

最後に、これは、書院の時代の鐘です。か

つて昼飯時や授業開始、終了のときに鐘を鳴らして知らせたわけです。これは今や「自由・受難の鐘」として継承され［28］、愛大史を語るシンボルとして豊橋校舎だけでなく、名古屋校舎にも設けられています。これも卒業生たちから継承された愛大精神の核です。この後は図書館です。

16. おわりに

というようなことで、ちょっと時間が過ぎてしまいましたけれども、きょうは最後に色々なエピソードまで添えてみました。

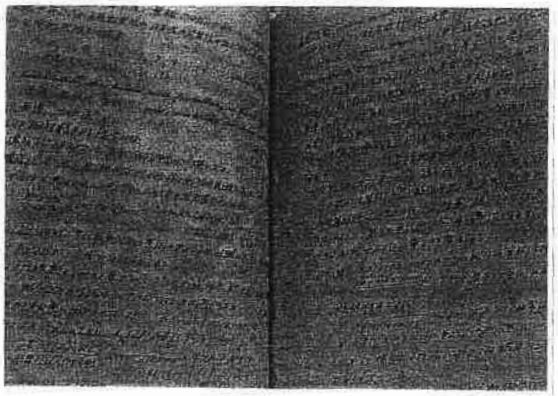
戦後に設立された愛大がこうやって見ると、非常に燃えていたことがわかりますし、きわめてドラマチックに愛知大学が誕生したことがおわかりいただけたと思います。その核心は最後の東亜同文書院の学長であり、愛大を中心的に創設した「**本間先生マジック**」です。やはり書院の伝統を踏まえて本間先生のパワーが非常に大きかったことがわかります。

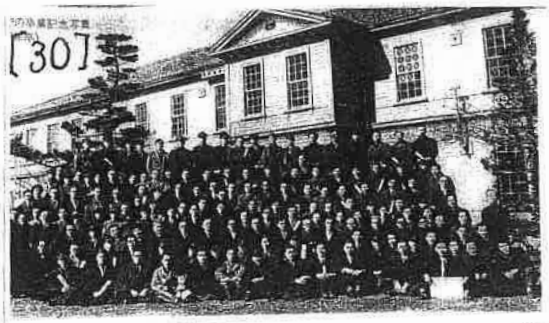
問題は、そういう過去のことを今日の愛大で新たに再評価し、吸収していただき、「温故知新」としてモデルとして学び、新たな大学像に向けて進んで欲しいと思います。以上のようにドラマチックな愛大誕生物語を皆様にも御理解いただければ幸いですし、愛大は面白そうで奥深い歴史もあるということで、さらにご関心を持っていただけたら幸いです。長時間ご清聴ありがとうございました。

＜付記＞

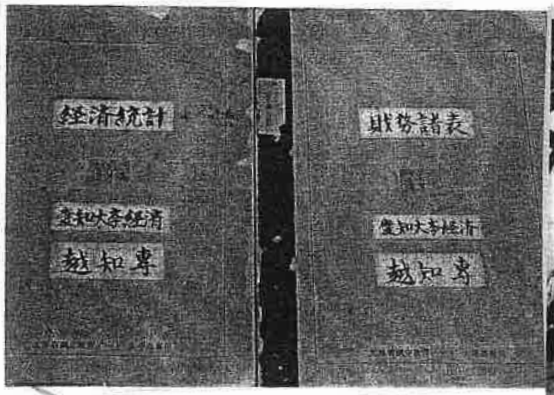
本講演は 2020 年 10 月～11 月に豊橋市南部地区市民館で行った筆者の連続 3 回シリーズのうち、最終回分を記録したものです。

最後に、校正チェックにご協力いただいた当センターの伊藤綾子さんと佐原陽子さんにお礼申し上げます。





高らかに愛大の名を讃えよう（旧制大卒業生）



[29] 越知学生の授業ノート

新制大初卒業式

[34]

記念式典であいさつする小池同窓会長

愛大豊橋校舎で開催された全国寮歌祭

[33]

短大部、夜間部の充実など

第18回神戸寮寮歌コンサート記念（平成13年9月26日　於　神戸海員会館メインホール）

［35］

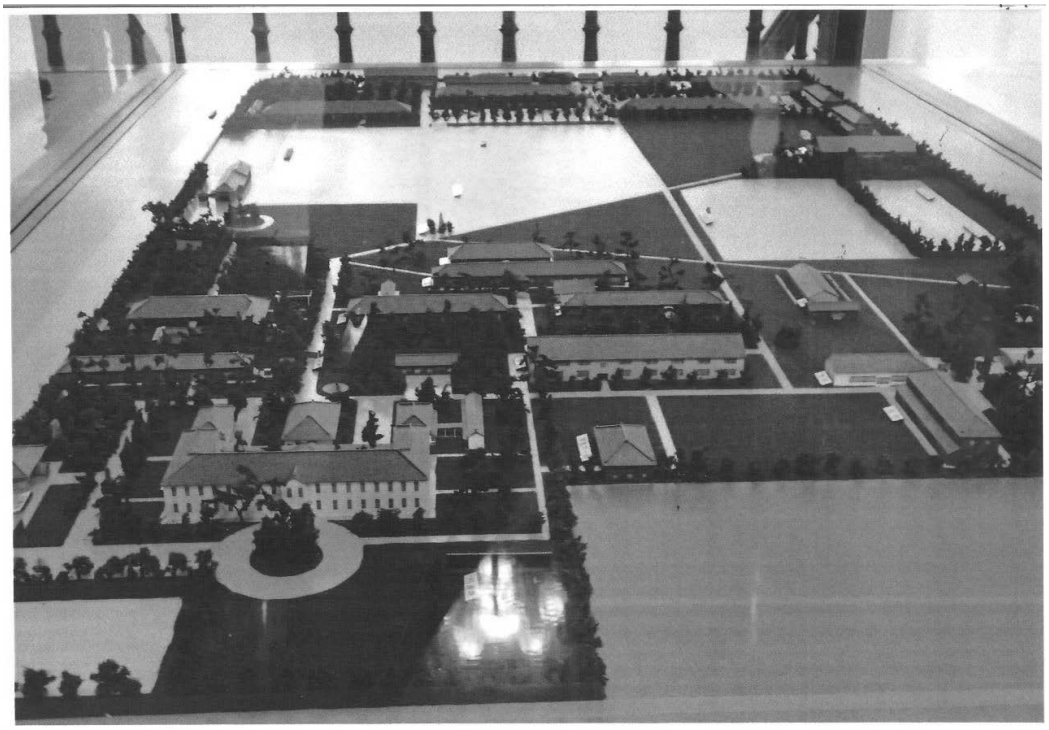
映画「黒部の太陽」ロケ・石原裕次郎、三船敏郎らと翠嵐寮生

翠嵐寮前にて　1952年　［36］翠嵐寮生

寮祭　1951年

［38］「寮祭」昭和26年
（於、体育館）

思草寮前にて　1952年　［37］思草寮生



［39］創設期の愛知大学キャンパス（正面左が本館、最奥の建物群が寮）

［40］　1980 年代の豊橋キャンパス

おわりに

1. 迅速な対応は「奇蹟」に近い

帰国へ
新大学へ
揺れる国際・国内環境に次々と対処
↓
愛大誕生にドラマチックな歴史、
書院経験をふまえた本間先生のパワー

2. 温故知新→今日の愛大へどう継承し、
どう生かすか。